

(様式第10)

宮大医医45 号

令和 7 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人 宮崎大学長
鯨島 浩

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
氏名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

宮崎大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地
電話(0985) 85 - 1510

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科	○	7内分泌内科	○	8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
・脳神経内科で神経内科の診療を実施。 ・感染症内科でアレルギー科の診療を実施。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	形成外科	5	脳神経内科
6	糖尿病内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36				568	604

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	343	90	394.2
歯科医師	10	0	10
薬剤師	47		47
保健師			
助産師	22	3	23.8
看護師	559	39	584.9
准看護師			
歯科衛生士	7		7
管理栄養士	13		13

職種	員数
看護補助者	104
理学療法士	17
作業療法士	7
視能訓練士	9
義肢装具士	
臨床工学士	23
栄養士	
歯科技工士	1
診療放射線技師	31

職種	員数
診療エックス線技師	
臨床検査技師	52
衛生検査技師	
その他	
あん摩マッサージ指圧師	
医療社会事業従事者	7
その他の技術員	87
事務職員	122
その他の職員	9

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	39	眼科専門医	6
外科専門医	26	耳鼻咽喉科専門医	5
精神科専門医	5	放射線科専門医	10
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	15
産婦人科専門医	14	救急科専門医	13
		合計	186

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (賀本 敏行) 任命年月日 令和 6 年 10 月 1 日

平成28年4月1日～現在(医療安全管理委員会委員)
令和3年年4月1日～令和3年9月30日(医療安全管理部長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	441.7 人	11 人	451.7 人
1日当たり平均外来患者数	1006.6 人	89.2 人	1095.8 人
1日当たり平均調剤数	2809.4		剤
必要医師数	105.9		人

必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	36	人
必要(准)看護師数	267	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	414.4 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	16 床	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	276.4	m ²	病床数	16 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積				m ²
	[共用室の場合]	共用する室名	薬剤部 医薬品管理室・薬剤管理指導室			
化学検査室	334 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体搬送システム、生化学自動分析装置(JCA-BM6070G)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動免疫測定装置(Alinityシステム、コハス pro<801>)		
細菌検査室	87.2 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室		
病理検査室	184.2 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、ThinPrep、Fish装置、全自動密閉式パラフィン包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、遠心分離機、マイクローム、スライドプリンター、ドラフト装置、セーフティラック、組織自動カセット印字機、恒温器、伸展器、温浴器、純水製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX、排気機能付き切り出し台、撮影装置、フローユニット、凍結切片作製装置、安全キャビネット		
病理解剖室	52.5 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、ストレッチャー、ホルマリン排気バケツBOX、解剖用骨切断鋸装置、パソコン、モニター、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚		
研究室	2650 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン・書庫・机 ほか		
講義室	553 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	475 人
図書室	1908 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6 室	蔵書数	127,574 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		97.8	%	逆紹介率		110.9	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	9,071				人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,523				人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,096				人	
	D: 初診の患者の数	10,392				人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
西平 淳子	琉球大学病院 医療の質・安全管理部 長	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体 就労支援アストモス		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
宮崎大学医学部附属病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	50人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	2
扱い患者数の合計(人)	50人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)陽性膠原病リウマチ性疾患専門外来	取扱患者数	34
当該医療技術の概要			
HTLV-1感染症のある膠原病リウマチ性疾患患者の診療			
医療技術名	重症熱性血小板減少症(SFTS)ウイルス感染症早期診断検査試薬の改良・開発研究	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
致死性のウイルス感染症であるSFTSの早期診断試薬の改良及び開発を進めている。			
医療技術名	ダニ媒介感染症の多施設共同レジストリ研究	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
宮崎県におけるダニ媒介感染症(重症熱性血小板減少症候群/日本紅斑熱/つつがむし病)の多施設共同レジストリ研究			
医療技術名	超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
ERCP困難・不能例に対する超音波内視鏡を用いた胆道ドレナージ術を施行する。経胃的に肝内胆管にアプローチするEUS-HGSと経十二指腸球部的に肝外胆管にアプローチするEUS-CDSを施行している。前者は十二指腸狭窄・閉塞例に対して、後者は肝内胆管拡張が認められない例など施行している。			
医療技術名	皮膚病変を有する成人T細胞白血病リンパ腫(ATLL)患者に対するヒドロキシクロロキンの有効性・安全性を検討する単施設・非盲検・単群試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
くすぶり型及び予後不良因子のない慢性型の皮膚病変を有する ATLL患者に対して、ヒドロキシクロロキンの有効性・安全性を検討する単施設・非盲検・単群試験(目標症例数5例)			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	17
当該医療技術の概要			
網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	Nested PCRによる細菌または真菌に起因する難治性の眼感染症に対する迅速診断	取扱患者数	49
当該医療技術の概要			
難治性眼感染症の起炎菌を、nested PCRの手法を用いて検索する。			
医療技術名	難聴遺伝子解析	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
保険診療で検出されなかった遺伝子変異を解析			
医療技術名	妊娠22-23週の超早産に対する集学的管理	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
妊娠22～23週の周産期管理において、児は生存限界ぎりぎりの状態であり、妊娠24週以降の分娩とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			

医療技術名	内視鏡を用いた顎骨嚢胞に対する低侵襲手術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
比較的大きな顎骨嚢胞の場合は、内視鏡を用いることで切開、骨削除範囲を最小限にすることで侵襲の少ない手術が可能となる。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	新生児脳低温療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
新生児脳低温療法(BHT)は、低酸素性虚血性脳症(HIE)による恒久的な脳障害を予防あるいは軽減する目的で始められた治療法である。生後6時間以内に治療を開始し、目標深部温度34℃まで冷却する。指標は、食道温や直腸温を用いる。BHT施行中は、各種モニタリングを行い、体温管理と同時に呼吸循環、血液凝固、電解質、感染、痙攣などに注意する。冷却時間は72時間で復温を開始する。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	323
当該医療技術の概要			
遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。保険収載されたBRCA1/2遺伝学的検査に関する連携協定を県内の医療施設と結んでおり、現在の連携施設数は14施設である。			
医療技術名	キメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
再発または難治性大細胞型B細胞リンパ腫に対するキメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)療法を2025年8月より導入した。造血細胞移植認定医資格を有する医師が主体となり、輸血・細胞治療部と連携して施行している。治療はクリーンユニットを用い、感染管理を含む安全対策を整備した上で実施している。また、CAR-T療法後に発生し得るサイトカイン放出症候群等の有害事象に対しては、集中治療部および神経内科と連携し、迅速な対応が可能な体制を構築している。			
医療技術名	O-armナビゲーション下脊椎固定術	取扱患者数	100
当該医療技術の概要			
移動型術中イメージングシステム(O-arm)により取得した術中CT画像を用いて、ナビゲーションシステム下に高精度な脊椎インストゥルメンテーション(固定術)を実施する。			
医療技術名	自家培養軟骨移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
膝関節軟骨欠損に対して、患者自身から採取した健全な軟骨組織を体外で培養・増殖させた後、欠損した関節軟骨部位に移植する再生医療。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	21
取扱い患者数の合計(人)	580

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	下垂体性TSH分泌亢進症	1
2	筋萎縮性側索硬化症	14	57	下垂体性PRL分泌亢進症	32
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	クッシング病	4
4	進行性核上性麻痺	4	59	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	18
5	パーキンソン病	70	60	下垂体前葉機能低下症	124
6	大脳皮質基底核変性症	5	61	先天性副腎皮質酵素欠損症	8
7	ハンチントン病	3	62	先天性副腎低形成症	1
8	シャルコー・マリー・トウース病	1	63	アジソン病	2
9	重症筋無力症	69	64	サルコイドーシス	74
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	46	65	特発性間質性肺炎	40
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	20	66	肺動脈性肺高血圧症	17
12	封入体筋炎	2	67	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	17
13	多系統萎縮症	11	68	リンパ脈管筋腫症	2
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	69	網膜色素変性症	17
15	ライソゾーム病	10	70	バッド・キアリ症候群	1
16	副腎白質ジストロフィー	3	71	原発性胆汁性胆管炎	30
17	ミトコンドリア病	3	72	旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	
18	もやもや病	20	73	原発性硬化性胆管炎	4
19	HTLV-1関連脊髄症	7	74	自己免疫性肝炎	17
20	全身性アミロイドーシス	64	75	クローン病	252
21	神経線維腫症	25	76	潰瘍性大腸炎	293
22	天疱瘡	15	77	好酸球性消化管疾患	1
23	表皮水疱症	1	78	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
24	膿疱性乾癬(汎発型)	20	79	若年性特発性関節炎	2
25	高安動脈炎	15	80	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	
26	巨細胞性動脈炎	1	81	筋ジストロフィー	7
27	結節性多発動脈炎	5	82	脊髄空洞症	2
28	顕微鏡的多発血管炎	36	83	脊髄髄膜瘤	1
29	多発血管炎性肉芽腫症	9	84	先天性無痛無汗症	1
30	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	85	アレキサンダー病	1
31	悪性関節リウマチ	1	86	先天性大脳白質形成不全症	1
32	パージャー病	3	87	レノックス・ガストー症候群	1
33	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	88	ウエスト症候群	3
34	全身性エリテマトーデス	166	89	結節性硬化症	9
35	皮膚筋炎／多発性筋炎	105	90	色素性乾皮症	1
36	全身性強皮症	81	91	家族性良性慢性天疱瘡	1
37	混合性結合組織病	37	92	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13
38	シェーグレン症候群	47	93	特発性後天性全身性無汗症	7
39	成人スチル病	13	94	弾性線維性仮性黄色腫	4
40	再発性多発軟骨炎	4	95	マルファン症候群	4
41	ベーチェット病	51	96	エーラス・ダンロス症候群	3
42	特発性拡張型心筋症	26	97	ウィルソン病	3
43	肥大型心筋症	19	98	ジュベール症候群関連疾患	1
44	再生不良性貧血	16	99	旧病名(有馬症候群)	
45	自己免疫性溶血性貧血	3	100	ウィリアムズ症候群	1
46	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	101	ブラダー・ウィリ症候群	1
47	特発性血小板減少性紫斑病	6	102	総動脈幹遺残症	1
48	原発性免疫不全症候群	12	103	修正大血管転位症	1
49	IgA 腎症	23	104	完全大血管転位症	2
50	多発性嚢胞腎	16	105	単心室症	2
51	黄色靱帯骨化症	21	106	三尖弁閉鎖症	1
52	後縦靱帯骨化症	80	107	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2
53	広範脊柱管狭窄症	7	108	ファロー四徴症	5
54	特発性大腿骨頭壊死症	63	109	両大血管右室起始症	1
55	下垂体性ADH分泌異常症	19	110	急速進行性糸球体腎炎	1
				抗糸球体基底膜腎炎	1
				一次性ネフローゼ症候群	36
				一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

111	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
112	オスラー病	2
113	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3
114	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5
115	フェニルケトン尿症	1
116	プロピオン酸血症	1
117	イソ吉草酸血症	1
118	肝型糖原病	1
119	シトステロール血症	2
120	家族性地中海熱	4
121	強直性脊椎炎	15
122	骨形成不全症	2
123	軟骨無形成症	1
124	後天性赤芽球癆	2
125	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
126	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
127	胆道閉鎖症	2
128	遺伝性膵炎	2
129	IgG4関連疾患	8
130	レーベル遺伝性視神経症	2
131	好酸球性副鼻腔炎	69
132	シトリン欠損症	2
133	大理石骨病	1
134	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
135	特発性多中心性キャッスルマン病	1
136	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1
137	ホモシスチン尿症	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	137
合計患者数(人)	2562

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療	・精神科身体合併症管理加算
・医療DX推進体制整備加算2	・精神科リエゾンチーム加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・摂食障害入院医療管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・栄養サポートチーム加算
・歯科外来診療感染対策加算3	・医療安全対策加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・感染対策向上加算1
・特定機能病院入院基本料	・感染対策向上加算1の注2:指導強化加算
・特定機能病院入院基本料の注10:入院栄養管理体制加算	・感染対策向上加算1の注5:抗菌薬適正使用支援加算
・特定機能病院入院基本料(精神)(13対1)	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料の注4:重度認知症加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク分娩管理加算
・診療録管理体制加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割以上)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算の注2:夜間100対1急性期看護補助体制加算	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算の注3:夜間看護体制加算	・入退院支援加算1
・急性期看護補助体制加算の注4:看護補助体制充実加算2	・入退院支援加算の注7:入院時支援加算
・看護職員夜間配置加算(12対1)1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護補助加算2	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算2
・重症者等療養環境特別加算	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料1
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・救命救急入院料の注2のイ:精神疾患診断治療初回加算
・緩和ケア診療加算	・救命救急入院料の注3:救急体制充実加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準(がん専門管理栄養士による栄養食事指導)	・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5:遠隔モニタリング加算	・救急患者連携搬送料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2:難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料イ	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・がん患者指導管理料ロ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料ハ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ニ	・遺伝学的検査
・外来緩和ケア管理料	・骨髓微小残存病変量測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)(血液を検体とするもの)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・がんゲノムプロファイリング検査
・小児運動器疾患指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・婦人科特定疾患治療管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・腎代替療法指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・二次性骨折予防継続管理料1	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・二次性骨折予防継続管理料3	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・院内トリアージ実施料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・外来放射線照射診療料	・国際標準検査管理加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・遺伝カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・薬剤管理指導料	・胎児心エコー法
・医療機器安全管理料1	・ヘッドアップティルト試験
・医療機器安全管理料2	・人工臓器検査、人工臓器療法
・医療機器安全管理料(歯科)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・精神科退院時共同指導料1及び2	・単線維筋電図

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・神経学的検査	・無菌製剤処理料
・補聴器適合検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・黄斑局所網膜電図	・心大血管疾患リハビリテーション料の注3:初期加算
・全視野精密網膜電図	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・脳血管疾患等リハビリテーション料の注3:初期加算
・コンタクトレンズ検査料1	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・小児食物アレルギー負荷検査	・運動器リハビリテーション料の注3:初期加算
・内服・点滴誘発試験	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料の注3:初期加算
・口腔細菌定量検査	・がん患者リハビリテーション料
・有床義歯咀嚼機能検査1のⅠ	・歯科口腔リハビリテーション料2
・有床義歯咀嚼機能検査1のⅡ及び咀嚼能力検査	・救急患者精神科継続支援料
・有床義歯咀嚼機能検査2のⅠ	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・有床義歯咀嚼機能検査2のⅡ及び咬合圧検査	・医療保護入院等診療料
・精密触覚機能検査	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算1	・人工腎臓
・ポジトロン断層撮影	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・ストーマ合併症加算
・CT撮影及びMRI撮影	・手術用顕微鏡加算
・冠動脈CT撮影加算	・口腔粘膜処置
・心臓MRI撮影加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・外来化学療法加算1・外来腫瘍化学療法診療料1	・歯科技工加算1及び2
・外来腫瘍化学療法診療料1の注9:がん薬物療法体制充実加算	・センチネルリンパ節加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・気管支バルブ留置術
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緊急穿頭血腫除去術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・羊膜移植術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・胸腔鏡下弁置換術
・網膜再建術	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・人工中耳植込術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・生体腎移植術
・経皮的下肢動脈形成術	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・尿道狭窄グラフト再建術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・精巣温存手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・体外衝撃波胆石破砕術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下肝切除術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・体外衝撃波脾石破砕術	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	・定位放射線治療
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・輸血管理料Ⅰ	・画像誘導密封小線源治療加算
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・コーディネート体制充実加算	・病理診断管理加算2
・自己生体組織接着剤作成術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・同種クリオプレシピテート作製術	・歯科矯正診断料
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・歯周組織再生誘導手術	・看護職員処遇改善評価料(53)
・手術時歯根面レーザー応用加算	・外来・在宅ベースアップ評価料(1)
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(1)
・歯根端切除手術の注3	・入院ベースアップ評価料(70)
・レーザー機器加算	・入院ベースアップ評価料(70)(歯科)
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<div>① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</div> <div>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</div>	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	検査部： 120 回 病理部： 200 回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	7
	剖検率(%)	2.3

1) 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
末期腎不全合併冠動脈疾患における新規血栓形成能解析法を用いた個別最適化医療の構築	海北 幸一	循環器内科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
健康寿命延伸を見据えた抗血栓療法のための新規出血リスクスコアの開発	松浦 祐之介	循環器内科	2,600,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
ATL新規治療標的の同定と、個別化医療への展開	下田 和哉	血液内科	22,724,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	亀田 拓郎	血液内科	260,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
遺伝子発現制御法を用いた多発性硬化症の成因解明と治療探索研究	中里 祐毅	脳神経内科	1,040,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
担癌状態のパクリタキセルの神経毒性とグレリンシグナル活性化による神経保護の検討	塩見 一剛	脳神経内科	1,820,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
ALS新規治療標的の開発に向けたコレステロール合成経路の役割の解明	杉山 崇史	脳神経内科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
生理活性ペプチドLEAP2を用いた細菌性髄膜炎の新規診断法と治療探索研究	酒井 克也	脳神経内科	2,080,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
グレリンシグナルの活性化による高齢者肺炎サルコペニアへの新規治療法の開発	坪内 拡伸	呼吸器内科	1,040,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
尿中蛋白質断片の網羅的解析による日和見感染症の新規診断法の開発	宮崎 泰可	呼吸器内科	1,170,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
自然肺腺癌モデルマウスの1細胞解析で発見した間葉胚集団の発癌への必須性の解明	柳 重久	呼吸器内科	2,340,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
多微生物性バイオフィルムに対するカスポファンギンの新規抗微生物活性の検証	住吉 誠	呼吸器内科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の安全性と忍容性に関する解析	宮崎 泰可	呼吸器内科	99,000	委	国立大学法人長崎大学
侵襲性真菌感染症の迅速診断法と新規治療法の研究開発	宮崎 泰可	呼吸器内科	20,800,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	上野 浩晶	内分泌・代謝・糖尿病内科	300,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
医療施設における水道蛇口整流器の取り扱い標準化の確立	高城 一郎	感染症内科	1,170,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
SFTSウイルス感染は宿主の好中球機能を低下させ、真菌症合併のリスクとなるか？	川口 剛	感染症内科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
HTLV-1陽性関節リウマチのPD-1陽性T細胞サブセットに着眼した炎症病態の解明	梅北 邦彦	膠原病内科	1,690,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	梅北 邦彦	膠原病内科	200,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	梅北 邦彦	膠原病内科	650,000	委	国立大学法人長崎大学
肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	永田 賢治	消化器内科	400,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
脳構造と脳機能から精神疾患を再分類する取り組み:5カ国国際共同研究	平野 羊嗣	精神科	1,690,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
統合失調症者の言語性幻聴緩和のためのニューロフィードバック支援法の開発	平野 羊嗣	精神科	260,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
社会的ひきこもり事例の支援者要因に着目した治療の要因モデル作成に関する研究	久保 浩明	精神科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
難治性痒みの伝達機構におけるグルタミン酸受容体の役割の解明	治田 彩香	精神科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
神経同期活動を軸にした統合失調症の橋渡し研究:病態解明と新規治療法開発にむけて	平野 羊嗣	精神科	4,160,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
MRIと脳波による統合失調症とてんかん性精神病の皮質病態・E/Iバランスの解明	平野 羊嗣	精神科	390,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
統合失調症における言語知覚障害とガンマオシレーション異常の関係性	田村 俊介	精神科	2,340,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
数理と臨床の共創による精神疾患サブタイプのヒト病態メカニズム解明	平野 羊嗣	精神科	5,200,000	委	国立大学法人東京大学
ヒトIPS細胞由来腎臓オルガノイドを用いたLMX1B変異に伴う腎症の病態解明	田中 悦子	小児科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
PDXマウスモデルを用いた再発難治小児急性骨髄性白血病の病態解明と新規治療法開発	盛武 浩	小児科	1,560,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
骨肉腫の肺転移制御遺伝子の同定と治療応用	山田 愛	小児科	1,820,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
わが国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する大規模調査研究	盛武 浩	小児科	300,000	委	特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ
初発の中間リスク急性リンパ芽球性白血病を有する0から24才の被験者を対象に標準的な強化療法とブリナツモマブを追加した強化療法の有効性と安全性を比較するオープンラベル、ランダム化、第2相、2群試験	盛武 浩	小児科	440,000	委	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
クリック反応技術と軸配位子糖鎖連結ポルフィリン錯体を融合した革新的PDTの開発	七島 篤志	肝胆膵外科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
GVHD誘導マウスでのサイトカイン阻害による胆道閉鎖症の炎症標的型治療法の開発	七島 篤志	肝胆膵外科	52,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
バーチャルリアリティを用いたオストメイトの体験共有によるセルフケア習得支援	濱田 剛臣	肝胆膵外科	3,250,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	古川 貢之	心臓血管外科	13,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
FMR治療における病理、遺伝子発現機構からの検証に基づいた左房機能評価の意義の確立	古川 貢之	心臓血管外科	1,040,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
動脈硬化性動脈瘤患者における特異的バイオマーカーの確立	西村 征憲	心臓血管外科	1,690,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
血行を持たせた脱細胞化神経の神経再生誘導能の解明と脱細胞化血管柄付き神経の開発	亀井 直輔	整形外科	1,515	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
miRNAを含むMSC-細胞外小胞による腱修復機構を基盤にした新規治療法の開発	亀井 直輔	整形外科	67,209	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
中枢神経髄鞘形成におけるマイクロRNAクラスターの機能的役割の解明	亀井 直輔	整形外科	181,755	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
骨粗鬆症を介した腰椎椎体終板障害の機能解明および新たな治療戦略の確立	亀井 直輔	整形外科	28,470	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
ヒト筋膜の三次元微細構造の視覚化と病的変化の究明	今里 浩之	整形外科	1,820,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)

ロコモティブシンドロームの評価・予防・治療法の開発	田島 卓也	整形外科	2,000,000	委	小林市立病院
IL-22結合タンパクによるアトピー性皮膚炎の制御機構の解明と治療法の開発	西川 陽太郎	皮膚科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
機械学習を用いた原発性アルドステロン症における個別化医療基盤の確立	西本 紘嗣郎	泌尿器科	65,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
副腎皮質細胞の形質遷移に着目した細胞層構築・維持と破綻に関する分子基盤の解明	西本 紘嗣郎	泌尿器科	65,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
ヒト化マウスを用いた腎細胞癌PDXモデルの樹立とMET阻害薬効果予測因子の同定	向井 尚一郎	泌尿器科	1,170,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
病変に着目した原発性アルドステロン症進展メカニズムの解明	西本 紘嗣郎	泌尿器科	260,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
転移性CRPCにおける、HGF/METパスイウェイを標的とした新規治療法の開発	賀本 敏行	泌尿器科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
ロボット支援腎部分切除・前立腺全摘除に適した3Dナビゲーションシステムの開発と検証	澤田 篤郎	泌尿器科	195,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
腎癌手術における腫瘍位置を可視化するナビゲーションシステムを完成させる	澤田 篤郎	泌尿器科	2,080,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
複数の臓器移植・転移モデルを用いたMET阻害薬およびHGF活性化阻害薬治療効果検証	藤井 将人	泌尿器科	2,080,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
High volume転移を認める前立腺癌患者に対する局所放射線治療を併用する標準治療の確立と治療効果予測マーカーの開発	賀本 敏行	泌尿器科	18,630,924	委	国立研究開発法人日本医 療研究開発機構
網膜色素変性を自然発症するカンクイザルの繁殖と治療法開発への応用	池田 康博	眼科	1,690,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
短後毛様動脈虚血による正常眼圧緑内障モデルの作成とアドレノメジュリンの効果の検討	中馬 秀樹	眼科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
網膜色素変性の病因遺伝子変異とその臨床像に関するエビデンス構築	池田 康博	眼科	12,935,000	委	国立研究開発法人日本医 療研究開発機構
全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノゲン活性化因子(tPA)眼局所治療に関する研究開発	池田 康博	眼科	1,560,000	委	国立大学法人佐賀大学
網膜色素変性に対する革新的なcDNA挿入型ゲノム編集遺伝子治療の開発	池田 康博	眼科	2,600,000	委	国立大学法人東海国立大 学機構
胎児期の低栄養環境による行動異常の発症とその早期診断に有効なマーカーに関する研究	桂木 真司	産科・婦人科	1,950,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
静脈血栓塞栓の質的診断に繋がるDual-energy CTによる血栓の成分解析	古小路 英二	放射線科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
移植患者の免疫抑制薬による疼痛の発症メカニズムを明らかにしその治療法を確立する	丸田 豊明	麻酔科	260,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
Nav1.7を標的とする疼痛治療薬の光遺伝学的探索:トラマドールとミロガバリン	日高 康太郎	麻酔科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
光遺伝学的手法で作製した神経障害性疼痛モデルマウスを用いた慢性疼痛移行機序の解明	丸田 豊明	麻酔科	1,300,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
①全身麻酔を受ける患者を対象とした循環動態自動調節ソフトウェア(ROPCT2)と手動との無作為化比較試験 -全静脈麻酔におけるROP CT2 検証- ②全身麻酔を受ける患者を対象とした循環動態自動調節ソフトウェア(ROPCT2)と手動との無作為化比較試験 -吸入麻酔におけるROP CT2 検証-	恒吉 勇男	麻酔科	2,920,000	委	国立大学法人福井大学
神経膠芽腫において代謝経路再編成が細胞増殖や治療抵抗性に与える機序の解明	渡邊 孝	脳神経外科	260,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
代謝経路再編成が概リズム経路を介し、幹細胞性維持、細胞死回避に及ぼす影響の解明	横上 聖貴	脳神経外科	130,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
オルガノイド・シングルセル解析法によるグリオーマ血管擬態の分子機構解明	山下 真治	脳神経外科	910,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
膠芽腫におけるシングルセルラマン分光法の確立による腫瘍細胞特性の解明	沖田 典子	脳神経外科	1,560,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
可及的摘出されたIDH変異型星細胞腫に対する標準治療を確立する研究	沖田 典子	脳神経外科	130,000	委	国立研究開発法人日本医 療研究開発機構
口腔扁平上皮癌におけるリンパ節転移の新規遺伝子診断アルゴリズムの確立	山下 善弘	歯科口腔外科	390,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
成長期の口腔育成から子どもロコモと高齢期オーラルフレイルを予防する新戦略	永田 順子	歯科口腔外科	910,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
切除不能進行再発胃腺癌もしくは食道胃接合部腺癌に対する3次治療以降のTrifluoridine/ tipiracin (FTD/TPI) + Ramucirumab (RAM) 併用療法とFTD/TPI単剤療法のランダム化第Ⅱ相比較試験 (WJOG15822G)	細川 歩	臨床腫瘍科	275,000	委	特定非営利活動法人 西 日本がん研究機構
CyberOncology®を用いた切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ併用化学療法の前向き観察研究 (PROCEED 試験) (WJOG15922G)	細川 歩	臨床腫瘍科	275,000	委	西日本がん研究機構
FGFR2b陽性切除不能進行・再発の胃または食道胃接合部腺癌を対象としたBemarituzumab + Paclitaxel + Ramucirumabの第Ⅱ相試験 (RAINBIRD) (WJOG18524G)	細川 歩	臨床腫瘍科	2,200,000	委	特定非営利活動法人西日 本がん研究機構
重症熱性血小板減少症候群における血小板減少と血液凝固異常の病態解明	盛口 清香	病理診断科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
大動脈瘤化を促進する壁内細胞の代謝変化とその血液指標の同定	中村 恵理子	病理診断科	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
冠動脈プラークの不安定化におけるビリルビンの関与と非侵襲的検出	前川 和也	病理診断科	1,170,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
癌病態進展因子であるα1-酸性糖タンパク質の異性体間における機能差異解析	松坂 幸太郎	薬剤部	1,170,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
免疫抑制薬の個別化薬物動態マネジメントを実現する新規バイオマーカーの開発	吉川 直樹	薬剤部	1,690,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
BHLHE41によるフェロトーシス誘導機序解明による新規肺腺癌治療薬の創薬基盤の確立	南 謙太郎	薬剤部	1,560,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
“小児の認知症”ニーマン・ピック病C型に対する臨床実装可能な新規治療薬の創出	山田 侑世	薬剤部	1,690,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
超高齢社会の転院・転所情報の共有技術支援及び技術導入がもたらす社会的課題の検討	鈴木 斎王	患者支援センター	1,170,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究	鈴木 斎王	患者支援センター	200,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
周産期予後改善を目指したウレアプラズマ陽性母体および新生児治療に関する臨床的研究	児玉 由紀	総合周産期母子医療 センター	1,040,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
新生児壊死性腸炎の死亡0を目指した核酸医薬RAGEアプタマーによる革新的治療法の開発	中目 和彦	総合周産期母子医療 センター	39,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
新生児低酸素性虚血性脳症における、LOX-1をターゲットとした新規治療法の開発	青木 良則	総合周産期母子医療 センター	1,820,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
CRISPR/Cas9によるHBZ遺伝子標的の転写調節因子tax遺伝子への影響	橋倉 悠輝	検査部	1,430,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)
重心移動で操作するロボットは、人工股関節全置換術後6週で歩行自立を獲得できるか？	宮崎 茂明	リハビリテーション部	2,340,000	補	科学研究費補助金 (文部科学省)

(注)

1
国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評 価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2
「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3
「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shimoda K, Komatsu N, Matsumura I, et al	血液内科	Momelotinib versus ruxolitinib in JAK inhibitor-naïve patients with myelofibrosis: an efficacy/safety analysis in the Japanese subgroup of the phase 3 randomized SIMPLIFY-1 trial.	Int J Hematol. 2024 Sep ; 120(3):314–324.	Original Article
2	Sugiyama T, Nishitoh H	脳神経内科	Neurodegenerative diseases associated with the disruption of proteostasis and their therapeutic strategies using chemical chaperones.	J Biochem. 2024 Sep 3 ; 176(3):179–186.	Original Article
3	Yokoe T, Tajima T, Chosa E	整形外科	Favorable Short-Term Outcomes of a Patient With Symptomatic Bipartite Navicular Bone Treated by Screw Fixation.	Cureus. 2024 Aug 27 ; 16(8):e67959. (オンライン)	Case Report
4	Uchimura S, Maruta T, Kamada R, et al	麻酔科	Misidentification of Medical Devices With Radiographic Contrast Functions As Retained Foreign Bodies on Postoperative Radiographs: A Report of Two Cases.	Cureus. 2025 Jan 28 ; 17(1):e78154. (オンライン)	Case Report
5	Hosokawa A, Tamura H, Ichihara A, et al	臨床腫瘍科	Pathological Complete Response to Liver Metastasis With Pembrolizumab in a Previously Treated Patient With Microsatellite Instability-high Colorectal Cancer.	Anticancer Res. 2024 Sep ; 44(9):4119–4125.	Case Report
6	Kai K, Shinoda H, Takeiri E, et al	手術部	Acceptance of Virtual Reality Simulation Training for Stoma Care by Healthcare Providers: A Pilot Questionnaire Study After Viewing Prototype Imagings.	Cureus. 2024 Jul 26 ; 16(7):e65465. (オンライン)	Original Article
7	Miyazaki S, Fujii Y, Tsuruta K, et al	リハビリテーション部	Spatiotemporal gait characteristics post-total hip arthroplasty and its impact on locomotive syndrome: a before-after comparative study in hip osteoarthritis patients.	PeerJ. 2024 Oct 22 ; 12:e18351. (オンライン)	Original Article
8	Nakai M, Iwanaga Y, Kanaoka K, et al	臨床研究支援センター	Contemporary Use of Oral Inotropes in the Outpatient Treatment of Heart Failure: Analysis of a Japanese Nationwide Database.	J Clin Pharmacol. 2025 Mar 3.	Original Article
9	Yasuda K, Hirano Y, Takeda R, et al	薬剤部	Characteristics of psychiatric patients with nightmares after suvorexant administration: A retrospective study.	Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Mar ; 45(1):e12506.	Original Article
10	Yoshikawa N, Ehara Y, Yamada Y, et al	薬剤部	Time in therapeutic range of tacrolimus in allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipients is associated with acute graft-versus-host disease prophylaxis.	Sci Rep. 2025 Jan 27 ; 15(1):3364. (オンライン)	Original Article
11	Yoshikawa N, Nagatomo T, Matsusaki Y, et al	薬剤部	Factors associated with changes in tacrolimus blood concentration after food initiation in patients with ulcerative colitis.	Pharmazie. 2024 Jun 1 ; 79(6):114–117.	Original Article
12	Yamada Y, Ishitsuka Y, Fukaura-Nishizawa M, et al	薬剤部	Intracerebroventricular 2-hydroxypropyl-β-cyclodextrin alleviates hepatic manifestations without distributing to the liver in a murine model of Niemann-Pick disease type C.	Life Sci. 2024 Aug 1 ; 350:122776.	Original Article
13	Harada K, Kawagoe K, Matsuura Y, et al	循環器内科	A case of rapidly progressive Salmonella aortic aneurysm with acute pericarditis manifesting as a precursor.	J Cardiol Cases. 2024 Dec 6 ; 31(3):76–79. (オンライン)	Case Report
14	Fujimoto K, Kikuchi M, Nakai M, et al	循環器内科	Effect of Antihypertensive Drugs on Rapid Decline in Estimated Glomerular Filtration Rate in Japanese Patients with Chronic Kidney Disease.	Am J Hypertens. 2025 Mar 23:hpaf041.	Original Article
15	Kaikita K, Uchiyama S, Atarashi H, et al	循環器内科	Antiplatelets for Cardiovascular Disease in Non-valvular AF with Rivaroxaban: A Subanalysis of the EXPAND Study.	J Atheroscler Thromb. 2025 Feb 1 ; 32(2):176–187.	Original Article
16	Ochiai S, Kikuchi M, Kaikita K	循環器内科	An Unusual Contrast Computed Tomography Scan Finding in a Patient with Immune Checkpoint Inhibitor-Associated AKI.	Kidney360. 2024 Jun 1 ; 5(6):927–928.	Case Report
17	Ishizaki YS, Kikuchi M, Kaikita K, et al	循環器内科	Uninephrectomy and sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor administration delay the onset of hyperglycemia.	Physiol Rep. 2024 Nov ; 12(21):e70121.	Original Article
18	Komaki S, Moribayashi K, Matsuura Y, et al	循環器内科	Optical coherence tomography imaging of coronary thrombosis developed after rotational atherectomy despite appropriate antithrombotic therapy.	Cardiovasc Interv Ther. 2024 Oct ; 39(4):493–494.	Case Report
19	Tsuruda T, Nakada H, Yamamura Y, et al	循環器内科	Basal inferoseptal segment is highly susceptible to deformation in the clinical spectrum of transthyretin-derived amyloid cardiomyopathy.	Eur Heart J Open. 2024 Sep 2 ; 4(5):oeae076. (オンライン)	Original Article
20	Shimoda K, Qin A, Komatsu N, et al	血液内科	Efficacy and safety outcomes in Japanese patients with low-risk polycythemia vera treated with ropeginterferon alfa-2b.	Int J Hematol. 2024 Aug ; 120(2):151–156.	Original Article

21	Miyazaki T, Shimamura S, Nagayoshi Y, et al	脳神経内科	Mechanisms of multidrug resistance caused by an Ipi1 mutation in the fungal pathogen <i>Candida glabrata</i> .	Nat Commun. 2025 Jan 25 ; 16(1):1023. (オンライン)	Original Article
22	Miyazaki T, van der Linden M, Hirano K, et al	脳神経内科	Serotype distribution and antimicrobial susceptibility of <i>Streptococcus pneumoniae</i> isolates cultured from Japanese adult patients with community-acquired pneumonia in Goto City, Japan.	Front Microbiol. 2024 Sep 24 ; 15:1458307. (オンライン)	Original Article
23	Kawaguchi T, Kitamura A, Kimura M, et al	脳神経内科	Successful treatment of disseminated cryptococcosis with liposomal amphotericin B and isavuconazole in an adult living with HIV: A case report and literature review.	J Infect Chemother. 2025 Jan ; 31(1):102534.	Case Report
24	Kimura M, Umekita K, Iwao C, et al	脳神経内科	Antiviral immune response against HTLV-1 invalidates T-SPOT.TB(AR) results in patients with HTLV-1-positive rheumatic diseases.	Front Immunol. 2024 Oct 29 ; 15:1480506. (オンライン)	Original Article
25	Kawaguchi T, Matsuda M, Umekita K, et al	脳神経内科	Treatment with low-dose nintedanib and tacrolimus in patients with progressive fibrosing interstitial lung diseases with anti-ARS antibody-positive dermatomyositis.	Respirol Case Rep. 2024 Jul 9 ; 12(7):e01428. (オンライン)	Case Report
26	Kitamura A, Yanagi S, Shide K, et al	脳神経内科	B-Acute Lymphoblastic Leukemia/Lymphoblastic Lymphoma Mimicking Fibrosing Mediastinitis: A Case Report and Diagnostic Insight.	Am J Case Rep. 2024 Dec 30 ; 25:e945804. (オンライン)	Case Report
27	Kawaguchi T, Rikitake Y, Rikitake M, et al	脳神経内科	Human granulocytic anaplasmosis with rash and rhabdomyolysis: A case report.	J Infect Chemother. 2024 Dec ; 30(12):1309-1314.	Case Report
28	Inomata R, Tsubouchi H, Takao T, et al	脳神経内科	Resolvin D4 mitigates lipopolysaccharide-induced lung injury in mice.	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 2024 Apr ; 203:102652.	Original Article
29	Kamiunten A, Kameda T, Sekine M, et al	血液内科	Effects of tucidinostat in adult T-cell leukemia/lymphoma in clinical practice.	Int J Hematol. 2025 Mar 11.	Original Article
30	Mitsutome E, Yanagi S, Uchida T, et al	脳神経内科	Postprandial hypoglycemia caused by the combination of clarithromycin and rifampicin in a patient with nontuberculous mycobacterial pulmonary disease.	J Infect Chemother. 2025 Jan ; 31(1):102482.	Case Report
31	Kaneko H, Ozono Y, Iwakiri H, et al	消化器内科	Reactivation of hepatitis C virus caused by steroid monotherapy for sudden deafness.	Clin J Gastroenterol. 2024 Jun ; 17(3):505-510.	Case Report
32	Tamura H, Ozono Y, Uchida K, et al	消化器内科	Multiple intrahepatic artery aneurysms during the treatment for IgG4-related sclerosing cholangitis: A case report.	World J Hepatol. 2024 Dec 27 ; 16(12):1505-1514.	Case Report
33	Hasuike S, Ozono Y, Uchida K, et al	消化器内科	An autopsy case of an adult woman with Rapid-Onset Obesity with Hypoventilation, Hypothalamic, Autonomic Dysregulation, and Neuroendocrine Tumors (ROHHAD(NET)) syndrome developing nonalcoholic steatohepatitis and hepatocellular carcinoma: A case report.	Medicine (Baltimore). 2024 May 31 ; 103(22):e38383.	Case Report
34	Suzuki S, Tominaga N, Aoki T, et al	消化器内科	Association of blood group O with a recurrent risk for acute lower gastrointestinal bleeding from a multicenter cohort study.	Sci Rep. 2024 Jun 17 ; 14(1):13983. (オンライン)	Original Article
35	Yonaga R, Kodama Y, Takamura K, et al	小児科	Isolated Blind-Ended Major Aortic Pulmonary Collateral Artery With an Aneurysm in an Infant With Trisomy 21.	Cureus. 2024 Oct 21 ; 16(10):e72078. (オンライン)	Case Report
36	Nagasawa S, Nishimura T, Yamada A, et al	小児科	CFAP43 variant in persistent respiratory symptoms after hematopoietic cell transplantation.	Hum Genome Var. 2024 Nov 22 ; 11(1):41. (オンライン)	Original Article
37	Kinoshita M, Saito Y, Otani K, et al	小児科	Mitochondrial dynamics as a potential therapeutic target in acute myeloid leukemia.	Int J Hematol. 2024 Nov ; 120(5):601-612.	Original Article
38	Aoki Y, Kota Y, Shimada M, et al	小児科	Effects of Songs Recorded by Parents on the Vital Signs of Preterm Infants: A Randomized Controlled Trial.	Children (Basel). 2025 Jan 27 ; 12(2):146. (オンライン)	Original Article
39	Nanashima A, Wada T, Kawano F, et al	肝胆膵外科	Managing uncontrolled bleeding in elective surgery: The role of damage control techniques.	Int J Surg Case Rep. 2025 Mar ; 128:111040.	Case Report
40	Nanashima A, Hiyoshi M, Imamura N, et al	肝胆膵外科	Relationship between survival outcomes in patients with colorectal liver metastasis undergoing hepatectomy and significance of fibrotic markers for liver injury assessment.	Transl Cancer Res. 2025 Jan 31 ; 14(1):461-472.	Original Article
41	Nanashima A, Hiyoshi M, Imamura N, et al	肝胆膵外科	Clinical significances of several fibrotic markers for prognosis in hepatocellular carcinoma patients who underwent hepatectomy.	Transl Cancer Res. 2024 May 31 ; 13(5):2332-2345.	Original Article
42	Hiyoshi M, Kai K, Wada T, et al	肝胆膵外科	MANGOU (Miyazaki Advanced New General Surgery of University) Wet Lab Training Relieves Anxiety About Surgical Skills in Surgical Education: A Cross-Sectional Study.	Cureus. 2024 May 28 ; 16(5):e61273. (オンライン)	Original Article

43	Nanashima A, Hiyoshi M, Imamura N, et al	肝胆膵外科	Clinical significances of liver fibrotic markers in patients with cholangiocarcinoma after radical resections.	Turk J Surg. 2024 Dec 27 ; 40(4):283–295. (オンライン)	Original Article
44	Masuya R, Nakame K, Munakata S, et al	消化管・内分泌・小児外科	A case of late-presenting congenital diaphragmatic hernia diagnosed at 5A?years with acute abdomen.	Surg Case Rep. 2024 Jul 30 ; 10(1):177. (オンライン)	Original Article
45	Nanashima A, Arai J, Hiyoshi M, et al	消化管・内分泌・小児外科	Clinical significance of para-aortic lymph node metastasis for prognosis in patients with pancreaticobiliary cancer who underwent radical surgical resections.	Turk J Surg. 2025 Feb 27 ; 41(1):5–18.	Original Article
46	Furukawa K, Iwasaki A, Ishii H, et al	ハートセンター	Mitral valve repair in severe mitral regurgitation due to Barlow's disease with concomitant mitral annular disjunction: a case report.	Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2025 Mar 4 ; 4(1):11. (オンライン)	Original Article
47	Kawano F, Inomata M, Yamada R, et al	呼吸器・乳腺外科	Video-assisted thoracoscopic surgery involving a bronchotomy in the removal of a bronchial foreign body: A novel case report.	Int J Surg Case Rep. 2024 Aug ; 121:110018.	Case Report
48	Inomata M, Kawano F, Yamada R, et al	呼吸器・乳腺外科	Radiological features and diagnostic pitfalls of idiopathic azygos vein aneurysm: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2024 Sep ; 122:110094.	Case Report
49	Yamada R, Oguri N, Kawano F, et al	呼吸器・乳腺外科	Primary pulmonary colloid adenocarcinoma: A case report of a rare subtype.	Int J Surg Case Rep. 2024 Oct ; 123:110260.	Case Report
50	Yokoe T, Kamei N	リハビリテーション科	Response to letter to editor to comment on “Retromalleolar groove morphology of the tibialis posterior tendon (TPT) in patients without TPT pathology evaluated by axial computed tomography scans”.	Foot Ankle Surg. 2025 Jun ; 31(4):376.	Letter
51	Yokoe T, Tajima T, Chosa E, et al	リハビリテーション科	Screening of Undiagnosed Increased Lateral Ankle Laxity Using Stress Ultrasonography.	Orthop J Sports Med. 2024 Apr 1 ; 12(4):23259671241235162. (オンライン)	Original Article
52	Yokoe T, Yang F, Tajima T, et al	リハビリテーション科	Comparison of ultrasonographic evaluation methods for ankle syndesmosis in non-weight bearing and weight bearing conditions.	Foot Ankle Surg. 2025 Jan ; 31(1):20–24.	Original Article
53	Yokoe T, Yang F, Tajima T, et al	リハビリテーション科	The evaluation of rotational lateral ankle laxity in gravity stress position by ultrasonography: normative value in uninjured ankles.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Oct 1 ; 25(1):764. (オンライン)	Original Article
54	Yokoe T, Yang F, Tajima T, et al	リハビリテーション科	Retromalleolar groove morphology of the tibialis posterior tendon (TPT) in patients without TPT pathology evaluated by axial computed tomography scans.	Foot Ankle Surg. 2024 Oct ; 30(7):608–611.	Original Article
55	Yokoe T, Nagasawa M, Tajima T, et al	リハビリテーション科	Direct repair of the chronic ochronotic Achilles tendon rupture: a case report.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Oct 24 ; 25(1):843. (オンライン)	Case Report
56	Mochida K, Narita Y, Amano M	皮膚科	Postoperative continuous compression bandaging was a useful technique for improving pseudosyndactyly in recessive dystrophic epidermolysis bullosa patients.	J Dermatol. 2024 Dec ; 51(12):e414–e415.	Letter
57	Ito K, Takamori H, Mukai S, et al	泌尿器科	Combination of laparoscopy and open technique in management of large extravesical urinary bladder leiomyoma; a case report.	Int J Surg Case Rep. 2024 Oct ; 123:110216.	Case Report
58	Ueno T, Kiwaki T, Betsunoh H, et al	泌尿器科	Metastasis of malignant melanoma to urinary tract: a case report.	J Med Case Rep. 2024 Aug 28 ; 18(1):396. (オンライン)	Case Report
59	Akioka T, Kimura S, Katayama Y, et al	泌尿器科	Phosphorylation of MET Is Upregulated in Metastatic Sites of Renal Cell Carcinoma: Possible Role of MET and Hepatocyte Growth Factor Activation-Targeted Combined Therapy.	Biomedicines. 2025 Mar 28 ; 13(4):811. (オンライン)	Original Article
60	Kawasoe C, Nishimoto K, Wakimura N, et al	泌尿器科	A case of intrascrotal fibrous pseudotumor caused by scrotal puncture.	IJU Case Rep. 2025 Jan 22 ; 8(2):118–120. (オンライン)	Original Article
61	Kimura S, Iwano S, Akioka T, et al	泌尿器科	Combined Therapy Targeting MET and Pro-HGF Activation Shows Significant Therapeutic Effect Against Liver Metastasis of CRPC.	Int J Mol Sci. 2025 Mar 5 ; 26(5):2308. (オンライン)	Original Article
62	Murashima T, Kida K, Gi T, et al	泌尿器科	Paratesticular cellular angiofibroma: a case report.	J Med Case Rep. 2024 Apr 11 ; 18(1):170. (オンライン)	Case Report
63	Mawatari G, Hiwatashi S, Motani T, et al	眼科	Efficacy of a wearable night-vision aid in patients with concentric peripheral visual field loss: a randomized, crossover trial.	Jpn J Ophthalmol. 2024 Jul ; 68(4):321–326.	Original Article
64	Yamada Y, Ganaha A, Nojiri N, et al	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Development of Air Cell System Following Canal Wall Up Mastoidectomy for Pediatric Cholesteatoma.	J Clin Med. 2024 May 16 ; 13(10):2934. (オンライン)	Original Article

65	Ganaha A, Nojiri N, Nakamura T, et al	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Diagnosis of Enlarged Vestibular Aqueduct Using Wideband Tympanometry.	J Clin Med. 2024 Nov 3 ; 13(21):6602. (オンライン)	Original Article
66	Maruta T, Kouroki S, Kurogi M, et al	麻酔科	Comparison of Nocifensive Behavior in Na(V)1.7-, Na(V)1.8-, and Na(V)1.9-Channelrhodopsin-2 Mice by Selective Optogenetic Activation of Targeted Sodium Channel Subtype-Expressing Afferents.	J Neurosci Res. 2024 Oct ; 102(10):e25386.	Original Article
67	Kawano T, Horinouchi S, Tamura M, et al	脳神経外科	A Case of Spontaneous Carotid-cavernous Fistula in a Patient with Vascular Ehlers-Danlos Syndrome.	NMC Case Rep J. 2024 Nov 16 ; 11:345-352. (オンライン)	Case Report
68	Shirakawa J, Kaneuji T, Matsuno D, et al	歯科口腔外科・矯正歯科	Correlation during the extent of surgical resection, oral function and quality of life after tongue cancer surgery: Single-institution study.	J Stomatol Oral Maxillofac Surg. 2024 Sep ; 125(4S):101907.	Original Article
69	Nakagawa H, Kage Y, Miura A, et al	歯科口腔外科・矯正歯科	The expression of the formin Fhod3 in mouse tongue striated muscle.	Cell Struct Funct. 2024 Nov 7 ; 49(2):111-122.	Original Article
70	Abe T, Saito K, Nagano T, et al	救急科	Complement system activation through the alternative pathway associates with disseminated intravascular coagulation to increase mortality in sepsis.	Thromb Res. 2025 Mar ; 247:109281.	Original Article
71	Kubo K, Abe T, Nagoshi H, et al	救急科	Should an emergency physician be a “surgeon” in a rural area? A case of blunt cardiac rupture successfully treated by an emergency physician.	J Rural Med. 2024 Apr ; 19(2):114-118.	Original Article
72	Abe T, Kijima H, Ohuchida J, et al	救急科	Cardiac Tamponade Due to Intrapericardial Hernia Mimicking ST-Segment Elevation Myocardial Infarction.	JACC Case Rep. 2024 Apr 20 ; 29(11):102348. (オンライン)	Case Report
73	Yamada Y, Abe T, Tanohata R, et al	救急科	Changes in coagulation factor XIII activity during resuscitation for hemorrhagic shock.	J Rural Med. 2024 Apr ; 19(2):76-82.	Original Article
74	Yamaguchi M, Yoshiyama T, Maruyama R, et al	生殖医療センター	Citrus tamurana Hort. ex Tanaka (Hyuganatsu orange)-derived arabinogalactan suppresses bone turnover in postmenopausal women: A randomized placebo-controlled study.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Dec ; 50(12):2299-2308.	Original Article
75	Tominaga M, Uto T, Fukaya T, et al	感染症内科	Crucial role of dendritic cells in the generation of anti-tumor T-cell responses and immunogenic tumor microenvironment to suppress tumor development.	Front Immunol. 2024 Aug 14 ; 15:1200461. (オンライン)	Original Article
76	Kojima R, Takeno S, Ikenoue M, et al	手術部	Submucosal hemorrhage of the esophagus: a case report.	Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2024 Nov 15 ; 3(1):51. (オンライン)	Original Article
77	Higuchi K, Ikenoue M, Ishizuka T, et al	手術部	SETDB1-Mediated Chromatin Regulation in Intestinal Epithelial Cells During Intestinal Ischemia-Reperfusion Injury.	Acta Histochem Cytochem. 2025 Feb 27 ; 58(1):9-18.	Original Article
78	Komatsu H, Fujimoto S, Sato Y, et al	医療人育成課	Effect of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy upon IgA nephropathy depending on proteinuria status at diagnosis: a nationwide multicenter cohort study in Japan.	Clin Exp Nephrol. 2024 Dec ; 28(12):1272-1281.	Original Article
79	Umekita Y, Kiwaki T, Kawaguchi M, et al	病理部	Loss of tumor cell surface hepatocyte growth factor activator inhibitor-1 predicts worse prognosis in esophageal squamous cell carcinoma.	Pathol Res Pract. 2025 Feb ; 266:155809.	Original Article
80	Oguri N, Gi T, Nakamura E, et al	病理部	Factor XI localization in human deep venous thrombus and function of activated factor XI on venous thrombus formation and hemostasis.	Res Pract Thromb Haemost. 2025 Mar 3 ; 9(2):102720. (オンライン)	Original Article
81	Oguri N, Gi T, Nakamura E, et al	病理部	Expression of fibroblast activation protein-I± in human deep vein thrombosis.	Thromb Res. 2024 Sep ; 241:109075.	Original Article
82	Maekawa K, Nakamura E, Saito Y, et al	病理部	Inflammatory stimuli and hypoxia on atherosclerotic plaque thrombogenicity: Linking macrophage tissue factor and glycolysis.	PLoS One. 2025 Mar 4 ; 20(3):e0316474. (オンライン)	Original Article
83	Oguri N, Tokumitsu T, Watanabe T, et al	病理部	A Case Report of an Immature Pituitary-Specific Transcription Factor 1 (PIT1)-Lineage Pituitary Neuroendocrine Tumor Along With Its Cytology and Ultrastructural Studies.	Cureus. 2024 Dec 15 ; 16(12):e75757. (オンライン)	Case Report
84	Yoshinaga N, Thew GR, Hayashi Y, et al	看護学科(精神科)	Translated and culturally adapted internet-delivered cognitive therapy for social anxiety disorder in Japanese clinical settings: study protocol for a randomised controlled trial.	Trials. 2024 Jul 19 ; 25(1):492. (オンライン)	Original Article
85	Yoshinaga N, Obara Y, Kawano N, et al	看護学科(精神科)	Real-World Effectiveness and Predictors of Nurse-Led Individual Cognitive Behavioral Therapy for Mental Disorders: An Updated Pragmatic Retrospective Cohort Study.	Behav Sci (Basel). 2024 Jul 16 ; 14(7):604. (オンライン)	Original Article
86	Yamaguchi F, Inomata C, Yoshinaga N, et al	看護学科(整形外科)	Evaluation of the effects of a team-based systematic prevention and management program for postoperative orthopedic older patients: A retrospective cohort study.	PCN Rep. 2024 Oct 9 ; 3(4):e70021. (オンライン)	Original Article

87	Yoji Hirano	精神科	Abnormal connectivity and activation during audiovisual speech perception in schizophrenia	Eur J Neurosci 2024 Apr	Original Article
88	Yamaguchi Fumitake	看護学科(整形外科)	Quantitative indices for assessing mobility in patients during the acute postoperative period following total hip and knee arthroplasties	J International Nursing Research August 2024	Original Article
89	Sayaka Kato	看護学科(精神科)	Brief Behavioral Activation Intervention for Inpatient Depression by Psychiatric Nurses: A Single-Group Study	SAGE Open Nurs 2024 Oct 18	Original Article
90	Kengo Kai	肝胆膵外科	Clinical Impact of the Charlson Comorbidity Index on the Efficacy of Salvage Photodynamic Therapy Using Talaporfin Sodium for Esophageal Cancer	Intern Med 2024 Apr 1	Original Article
91	Ryuta Masuya	消化管・内分泌・小児外科	Clinical outcome and neurological development of patients with biliary atresia associated with a bleeding tendency: a single institution experience	Surg Today 2024 May	Original Article
92	Kiyotaka Yokogami	脳神経外科	Inhibition of BMP signaling pathway induced senescence and calcification in anaplastic meningioma	J Neurooncol 2024 May	Original Article
93	Shoko Ochiai	腎臓内科	Rapidly progressive glomerulonephritis due to IgA nephropathy accompanied by collagenofibrotic glomerulopathy. A nephrology picture	J Nephrol 2024 Jun	Case Report
94	Tatsumi Yamasaki	ME機器センター	Removal characteristics of presepsin by operating conditions and hemofilter	J Artif Organs 2024 Sep	Original Article
95	Makoto Ikenoue	消化管・内分泌・小児外科	The crucial role of SETDB1 in structural and functional transformation of epithelial cells during regeneration after intestinal ischemia reperfusion injury	Histochem Cell Biol 2024 Apr	Original Article
96	Atsushi Nanashima	肝胆膵外科	The successful posterior sectionectomy accompanied with caudate lobectomy for hepatocellular carcinoma located in segment 1 after LEN-TACE: a case report	Clin J Gastroenterol 2024 Jun	Case Report
97	Masanori Nishimura	心臓血管外科	Three-dimensional fine structure of calcified nodules in the common femoral artery based on low-vacuum scanning electron microscopy	Eur Heart J Case Rep 2024 Apr 15	Case Report
98	Shintaro Izumoto	循環器内科	Rewiring of the dissected branch along the jailed balloon technique in provisional stenting for true coronary bifurcation lesions	Cardiovascular Revascularization Medicine June 2024	Original Article
99	Shusei Ebihara	小児科	Cytokine Storm Originating from the Intrapericardial Cavity in a Child With Pericardial Effusion Following COVID-19	J Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery July 01, 2024	Case Report

- (注)
- 1

当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2

報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3

「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4

「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5

「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6

「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	岩切 智美,原口 裕美,田 崎 智也 他	薬剤部	病院薬剤師の業務状況と薬薬連携に関する調査	九州薬学会雑誌； 2024.10:78:73-78	Original Article
2	島田 美香,山崎 圭子	看護部	NICU・GCUに入院している乳児の泣きに対する看護師の捉え方	母性衛生；2024.07:65:232-239	Original Article
3	波種 真希,黒木 純,阪口 嘉美 他	小児科	腎代替療法を継続できなかった重症心身障碍児	日本小児PD・HD研究会雑誌； 2024.11:35:98-101	Original Article
4	興枺 智子,松山 美静代, 麻田 智子 他	小児科	視床下部過誤腫によるゴナドトロピン依存性思春期早発症の男児例	宮崎県医師会医学会誌； 2024.09:48:173-178	Original Article
5	市原 明子,市来 伸彦,千 代反田 顕 他	消化管・内分泌・小児外科	術前治療後に骨盤内臓全摘術を施行した局所進行直腸癌の治療成績	宮崎県医師会医学会誌； 2024.09:48:129-136	Original Article
6	中目 和彦,榎屋 隆太,永 澤 俊 他	消化管・内分泌・小児外科	小児血液・悪性固形腫瘍患者に対する鎖骨上アプローチを用いた腕頭静脈穿刺による中心静脈カテーテル挿入術の検討	日本小児外科学会雑誌； 2024.04:60:158-165	Original Article
7	南里 健太,伊東 大,伊東 憲子	形成外科	眉毛下切開で治療した小児眼窩上壁骨折の1例	創傷；2024.07:15:81-85	Original Article
8	肥後 聖,比嘉 聖,濱中 秀 昭 他	整形外科	脊椎手術の術中・術後の止血に難渋し発覚した血小板機能異常症の1例	整形外科と災害外科； 2024.09:73:415-420	Original Article
9	長澤 誠,大田 智美,帖佐 悦男	整形外科	成長期野球選手の上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨柱移植術の手術成績	日本肘関節学会雑誌； 2024..31:215-217	Original Article
10	松永 美穂,大田 智美,田 島 卓也 他	整形外科	リファンピシン使用によりステロイド作用が減弱し治療に難渋した手関節非結核性抗酸菌症の1例	整形外科と災害外科； 2024.09:73:602-605	Original Article
11	大野 鉄平,大田 智美,長 澤 誠 他	整形外科	遠位上腕二頭筋腱断裂の2例	日本肘関節学会雑誌； 2024..31:174-177	Original Article
12	大野 鉄平,中村 嘉宏,今 里 浩之 他	整形外科	受傷4ヵ月後に観血的整復を要した小児陳旧性外傷性股関節脱臼の1例	整形外科と災害外科； 2024.09:73:832-834	Original Article
13	西原 桃子,江藤 博文,田 中 愛実 他	皮膚科	局所再発と左鼠径リンパ節転移を生じた会陰部malignant granular cell tumorの1例	Skin Cancer；2024.06:39:30-35	Original Article
14	後藤 裕磨,古田 賢,當瀬 ちひろ 他	産科・婦人科	会陰損傷・外陰癌・骨盤底 縫合モデルを用いたハンズオントレーニングを行った翌日に遭遇し,修復することができた4度会陰裂傷の一例	産婦人科手術；2024.06:49-54	Original Article
15	都築 康恵,山田 直史,東 真理恵 他	産科・婦人科	胎児胸水に対して妊娠18週に胸腔-羊水腔シャント術を行い,呼吸補助なく退院できた一例	宮崎県医師会医学会誌； 2024.09:48:179-183	Original Article
16	福元 拓郎,山田 直史,小 野 静 他	産科・婦人科	肝障害が遷延した新生児仮死の1例	日本産婦人科・新生児血液学 会誌；2024.05:34:23-24	Original Article
17	藤崎 碧,大西 淳仁,佐藤 謙成 他	産科・婦人科	子宮頸癌放射線治療後の照射野内リンパ節再発に対して手術療法を選択した5例	日本婦人科腫瘍学会雑誌； 2024.07:42:285-291	Original Article
18	山田 明輝,中山 雄貴,安 藤 大介 他	検査部	総合周産期母子医療センターで患児および搾乳された母乳から検出されたMRSAの解析	日本環境感染学会誌； 2024.05:39:64-69	Original Article
19	谷口 美桜,畑中 あすか, 甲斐 千遥 他	放射線部	主成分回帰を用いたアルツハイマー関連遺伝子の型と脳萎縮パターンの関係を抽出するための画像データマイニング	医用画像情報学会雑誌； 2024.06:41:41-45	Original Article
20	齋藤 嬉和,野口 裕史,徳 満 貴子 他	病理部	術中迅速細胞診が有用であった卵巣成人型顆粒膜細胞腫の2例	日本臨床細胞学会九州連合会 雑誌；2024.07:55:71-75	Original Article
21	吉川 直樹	薬剤部	新規薬物動態制御理論に基づく免疫抑制薬の革新的個別化医療	薬学雑誌；2024.12:144:1075- 1080	Review
22	松崎 裕紀,吉川 直樹,南 謙太郎 他	薬剤部	自然排尿がある間歇的血液透析施行患者において非透析日のバンコマイシン追加投与により治療が奏功した症例	TDM研究；2024.09:41:61-65	Original Article
23	関屋 裕史,緒方 豊,森木 豊栄 他	薬剤部	テリパラチドにおける先行バイオ医薬品からバイオシミラーへの切り替えの影響とバイオシミラー普及の課題	ジェネリック研究； 2025.01:18:126-138	Original Article
24	関屋 裕史,緒方 豊,森木 豊栄 他	薬剤部	新規の医薬品採用区分導入が病院の経営と業務に与える影響	九州薬学会雑誌； 2024.10:78:99-105	Original Article
25	関屋 裕史,緒方 豊,森木 豊栄 他	薬剤部	返納薬管理業務における薬剤師と医薬品SPDのタスク・シフト/シェアの有用性の検討	九州薬学会雑誌； 2024.10:78:107-112	Original Article
26	後庵 篤,落合 彰子,植村 倫行 他	循環器内科	直腸潰瘍からの頻回の出血性ショックに対し,人工肛門造設術を行い救命し得た長期ステロイド使用透析患者の一例	九州人工透析研究会誌； 2024.12:8:29-34	Original Article
27	船橋 英樹,藤元 貴子,津 曲 麻依 他	精神科	私のカルテから 「嘘」を直面化した際に異なる反応を示した4症例	九州神経精神医学； 2024.04:69:101-107	Original Article
28	小川 智香,黒木 純,阪口 嘉美 他	小児科	重症新生児仮死に合併した腎障害に対し子どもの最善の利益を尊重した腎不全治療	日本小児腎不全学会雑誌； 2024.08:44:171-174	Original Article

29	山添 早織,中馬 秀樹,池田 康博	眼科	抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎の視力の経過	臨床眼科；2024.07:78:823–827	Original Article
30	高橋 邦行	耳鼻いんこう・頭頸部外科	めまい疾患診断の進歩	宮崎県医師会医学会誌；2024.09:48:123–128	Review
31	黒木 麻由,大栗 伸行,中村 恵理子 他	病理診断科	僧帽弁形成術に関連した左心室 mesothelial/monocytic incidental cardiac excrescenceの1例	診断病理；2024.10:41:343–348	Original Article
32	山下 篤	病理診断科	止血・静脈血栓形成機序up to date	宮崎県医師会医学会誌；2024.09:48:117–122	Review
33	西山 功一	医療人育成推進センター	血管をとりまく力学環境による血管新生の制御	生体医工学；2024年Annual62巻Abstract号 p.95_2	Review
34	佐藤 勇一郎	病理部	内膜生検でp53異常の腺癌を疑った癌肉腫の1例	日本婦人科病理学会誌；Vol.15: No.2: 71–73	Original Article
35	野口 裕史	病理部	異染性粘液様物質を認めた類上皮血管内皮腫の 1 例	日本臨床細胞学会雑誌；2024年63巻1号 p.19–24	Original Article
36	白濱 幸生	病理部	TBBとEBUS–TBNAにおけるROSEの有用性および異型細胞所見について	日本臨床細胞学会雑誌；2024年63巻6号 p.285–294	Original Article
37	花田 智	循環器内科	宮崎県における心不全患者への退院時理学療法サマリー記載項目統一化に向けた調査研究	心臓リハビリテーション；30巻3/4号301–308,2024.	Original Article
38	落合 彰子	腎臓内科	透析導入期, ANCA関連血管炎による肺胞出血に対するステロイド治療中に肺ノカルジア症を発症した1例	日本透析医学会雑誌；2024年57巻1号 p.29–35	Original Article
39	清水 一晃	肝胆脾外科	経肛門的小腸バルーン内視鏡で術前に病理診断した小腸原発悪性黒色腫の1例	日本臨床外科学会雑誌；85(11), 1551–1555, 2024	Original Article
40	前田 翔吾	リハビリテーション部	SBi Silicone?インプラントによる人工中手指節間関節置換術後	日本ハンドセラピー学会誌；2025年17巻1号 p.41–47	Original Article
41	明利 聡瑠	小児科	ガラクトース高値を認め、蛋白質加水分解MCT乳を使用したシトリン欠損症	特殊ミルク情報（60）49 – 52 2025年2月	Original Article
42	前田 翔吾	リハビリテーション部	手関節疼痛を有する関節リウマチ患者における保温素材を用いたリストサポーター型手関節装具使用の短期効果に関する検討	日本ハンドセラピー学会誌；2025年17巻1号 p.36–40	Original Article
43	鶴田 敏博	循環器内科	野生型トランスサイレチン心アミロイドーシス診療の現在と未来	宮崎県内科医会誌 第100号	Review

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 申請方法、審査方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 7 回 (持ち回り審査は随時実施)

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 0 回 (持ち回り審査は随時実施)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回 (録画した講習をオンデマンドで視聴可)
・ 研修の主な内容 臨床研究法及び生命・医学系研究倫理指針ガイダンスの改正内容について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。
また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を
開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師
に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	202人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
海北 幸一	循環器内科 ・腎臓内科	教授	34年	
下田 和哉	肝臓内科 ・血液内科	教授	37年	
宮崎 泰可	呼吸器内科 ・膠原病・感染症 内科 ・脳神経内科	教授	27年	
河上 洋	消化器内科	教授	29年	
平野 羊嗣	精神科	准教授	25年	
盛武 浩	小児科	教授	31年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	36年	
武野 慎祐	消化管・内分泌・	准教授	34年	
中目 和彦	小児外科	講師	29年	
古川 貢之	心臓血管外科	教授	30年	
前田 亮	呼吸器・乳腺外 科	准教授	23年	
伊東 大	形成外科	准教授	30年	
亀井 直輔	整形外科	教授	28年	
持田 耕介	皮膚科	講師	23年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	37年	
池田 康博	眼科	教授	30年	
高橋 邦行	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	27年	
桂木 真司	産科・婦人科	教授	30年	
東 美菜子	放射線科	教授	17年	
恒古 勇男	麻酔科	教授	33年	
沖田 典子	脳神経外科	教授	23年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	31年	
佐藤 勇一郎	病理診断科	教授	34年	

細川 歩	臨床腫瘍科	教授	30年	
落合 秀信	救急科	教授	36年	
荒川 英樹	リハビリテーション科	教授	27年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 第47回宮崎リハビリテーション研究会・研修の期間・実施回数 1回：令和7年2月22日・研修の参加人数 54名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

2024年度 附属病院研修等実績

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
2024年度 宮崎大学医学部附属病院における「宮大健康スポーツナース」の養成	<p>講義① 1)運動器の構造と役割 2)生体機能と運動、運動障害と予防～スポーツ外傷と障害～ 3)ロコモ検診について 4)宮大健 康スポーツナースの役割、目標、活動内容</p> <p>講義② 1)スポーツ障害における代表的なケガ 2)メディカルチェックと疲労回復のテクニック 3)宮大 健康スポーツナースの救護活動の実際</p> <p>講義③ 1)地域における運動器検診、メディカルチェック ・運動器検診と検診における看護師の役割 ・一次検診のチェック項目の評価方法 2)帯 ・スポーツ選手のメディカルチェックを理解する 同の流れについて</p> <p>演習① スポーツ外傷に対する応急処置とテーピング</p> <p>演習② ロコモティブシンドローム(運動器症候群)体操でロコモ予防を！ みんなでロコトレ関節の予防法</p>	講義・演習	5回	<p>講義① R6.9.9</p> <p>講義② R6.12.5</p> <p>講義③ R6.9.18</p> <p>演習① R6.10.17</p> <p>演習② R6.11.13</p>	9名
暴言・暴力研修会	暴言・暴力・クレームに繋がる発生要因、トラブルを未然に防ぐ挨拶・声掛け、暴言・悪質クレームへの対応、身の危険を感じる暴力事件発生時の具体的な対応策	講義	年1回	未定	20名
危機管理マニュアル研修会	防災対策対策マニュアル、BCPIについてスライドにて、時間外の検査部の役割	講義	年1回	4月17日	17名
LIS研修会	検体検査システム、細菌検査システム、生理検査システムについて実技	講義	年1回	5月1日	21名
ISO研修会	ISO15189第4版(2022年度)の理解、Web講習、E-ラーニングを利用	講義	年1回 新入・異動時	4月3日ー30日	39名
心肺蘇生・AED講習会	AED使用法、救命の手順、胸骨圧迫実技、除細動装置をAEDに切り替える方法	実技講習	年1回	6月21日	6名
時間外・緊急検査業務研修会	生化学検査、血液・血清検査、尿検査、細菌検査、生理検査における時間外・緊急検査の研修をスライドおよび口頭で実施	講義	年1回	5月15日	19名
検査部抄読会	症例報告、英語の文献紹介、研究報告等	講義	年20回	4/3、6/5、6/19、 7/3、7/17、8/7、 8/21、9/4、9/18、 10/16、10/23、 11/6、11/20、12/4、 12/18、1/15、2/5、 2/19、3/5、3/19	
接遇・コミュニケーション	接遇・コミュニケーションについて スライドを用いて実施	講義	年1回	5月15日	19名
体表面照合装置Identifyを用いた患者照合	1. 診療用高エネルギー放射線発生装置における業務研修 体表面照合装置Identifyを用いた患者照合を行い、照合画像との比較を行う。	講義及び実技	1回	2024年4月24日	7名
腔内治療(RALS)時のストレッチャー移動、治療計画CT訓練	2. 診療用放射線照射装置における業務研修 腔内治療用ストレッチャーを使用して、治療計画CT室までの動線の確保、ストレッチャーから治療計画用CTに移乗する際の注意点を確認する	講義及び実技	1回	2024年7月22日	7名
呼吸同期照射の設定、品質管理	1. 診療用高エネルギー放射線発生装置における業務研修 呼吸同期照射の治療計画を立てる際の注意点、呼吸同期照射に関連するQA(品質管理)を確認する	講義及び実技	1回	2024年9月9日	6名
治療計画装置Eclipse、Oncentraを用いた輪郭描出と治療計画研修	2. 診療用放射線照射装置における業務研修 2つの治療計画装置を用いて、腔内放射線治療計画の線量分布作成と輪郭描出を並行して行う方法を習得する	講義及び実技	1回	2024年11月29日	6名
暴言・暴力研修会	暴言・暴力・クレームに繋がる発生要因、トラブルを未然に防ぐ挨拶・声掛け、暴言・悪質クレームへの対応、身の危険を感じる暴力事件発生時の具体的な対応策	講義	年1回	2025.3.5	12名
危機管理研修会	防災対策マニュアル、BCPIについて講習	講義	年1回	2024.4.10	12名
LIS研修会	病理支援システムについて 実技講習	講義	年1回	2024.5.15	12名
ISO研修会	ISO15189第4版(2022年度)の理解、Web講習	講義	年1回 新入・異動時	2024.4.1	12名
病理部抄読会	文献紹介	講義	年15回	毎週木曜日	11名
接遇・コミュニケーション	接遇・コミュニケーションについて スライドを用いて実施	講義	年1回	2025.1.28	12名
化学物質の管理と使用について	化学物質の管理と使用について、リスクアセスメントの説明、保護具使用講習、動画視聴	講義	年1回	2024.4.6	12名

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
リハビリテーション合同カンファレンス	R6.4.15 症例1.環軸椎垂脱臼 垂直脱臼(整形外科) 症例2.腹壁癒痕ヘルニア(小児科) R5.13 症例1.胃噴門部癌(消化器内科) 症例2.悪性胸膜中皮腫(消化器内科) R5.7.22 症例1.ウェルニッケ脳症(救急科) 症例2.左膝蓋骨脱臼(整形外科) R5.8.26 症例1.spinal dAVF 出血欠発症(救急科) 症例2.右母指悪性末梢神経鞘腫(整形外科) R5.9.30 症例1.左外傷後変形性膝関節症(整形外科) 症例2.辺縁系脳炎(脳神経内科) R5.11.18 症例1.多発性筋炎疑い(脳神経内科) 症例2.左脛骨慢性骨髓炎(整形外科) R7.1.20 症例1.クリプトコッカス髄膜炎(脳神経内科) 症例2.右膝人工関節感染症(整形外科) R7.2.17 予演会 R7.3.17 予演会	カンファレンス	年9回	R6.4.15 R6.5.13 R6.7.22 R6.8.26 R6.9.30 R6.11.18 R7.1.20 R7.2.17 R7.3.17	30名
定期勉強会	R6.4.17: 脊髄損傷による不全対麻痺に対し促進反復療法・歩行支援ロボットを用いた歩行訓練により歩行機能が改善した一症例 R6.5.15: 心臓血管外科リハビリテーションにおける評価と治療 R6.6.12: 慢性疼痛のリハビリテーション R6.7.17: 摂食・嚥下活動と再建するために効果的な練習方法とは？ R6.8.21: 関節リウマチのトータルケアにおける課題 R6.9.11: 脳神経の解剖生理 R6.11.13: 急性期におけるポジショニング R6.12.18: 心疾患患者における病態管理とリスク管理 R7.2.12: 在宅・外来における循環器疾患患者のリスク管理と運動療法のポイント	勉強会形式	年9回	毎月1回水曜日 R6.4.17 R6.5.15 R6.6.12 R6.7.17 R6.8.21 R6.9.11 R6.11.13 R6.12.18 R7.2.12	30名
理学療法士勉強会	R6.04.22 呼吸リハビリテーションについて R6.06.20 救急対応 BLS実践講習 R6.09.30 急変対応 BLS実践講習 R6.10.28 多職種連携について R6.12.09 リハビリテーションと栄養 R7.02.10 膝OAに対するアプローチ方法	講義形式、実技	年6回	R6.04.22 R6.06.20 R6.09.30 R6.10.28 R6.12.09 R7.02.10	18名
作業療法士勉強会	R6.11.11 研究報告 (日本作業療法学会予演会)	講義	年1回	R6.11.11	7名
言語聴覚療法士勉強会	R6.04.18 症例検討(疼痛症状強い患者への高次脳機能評価) R6.05.16 症例検討(脳腫瘍患者の摂食嚥下訓練について) R6.06.20 初期評価の視点について R6.07.18 嚥下造影検査の実施手順 R6.09.26 症例検討(多発血管炎の患者の嚥下評価) R6.10.17 症例検討(誤嚥性肺炎患者の食事再開について) R6.11.16 軟口蓋について R6.12.19 今日からできる摂食・嚥下・口腔ケア R7.02.13 嚥下筋のストレッチ	勉強会形式	年9回	R6.4.18 R6.5.16 R6.6.20 R6.7.18 R6.9.26 R6.10.17 R6.11.16 R6.12.19 R7.2.13	言語聴覚士 全員(2～5名) ※育休・退職者あり変動
令和6年度第1回医療安全管理・感染対策講演会	①感染部門 「手指消毒剤使用量向上のために必要な知識と実践について」 ②医療安全管理部門 「病院内でのすべての鎮静を安全に行うために～酸素化のモニタリングと換気のモニタリングの重要性～」	講演会	年1回	2024年6月21日	279名
令和6年度第2回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「医薬品の適正使用に向けて」 ②感染部門 「ポストコロナと AMR(薬剤耐性菌)感染対策」	講演会	年1回	2024年7月2日	270名
令和6年度第3回医療安全管理・感染対策講演会	①感染部門 「当院の細菌検査について」 ②医療安全管理部門 「放射線部の医療安全」	講演会	年1回	2024年10月9日	180名
令和6年度第4回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「身近な医療機器・材料の安全管理」 ②感染部門 「当院の感染対策 Up To Date 2024」	講演会	年1回	2024年10月31日	151名
業務委託先従業員に対する医療安全管理及び感染対策に関する研修	医療安全管理・感染対策について	講演会 DVD研修	9回	2024年	279名
令和6年第1回～第2回医療安全管理・感染対策講演会	令和6年第1回～第2回医療安全管理・感染対策講演会をまとめたもの	e-ラーニング	年1回	2024年8月21日～9月10日	745名
令和6年第3回～第4回医療安全管理・感染対策講演会	令和6年第3回～第4回医療安全管理・感染対策講演会をまとめたもの	e-ラーニング	年1回	2025年1月8日～2025年2月28日	1,622名
令和6年度特定機能病院承認要件に定めるe-ラーニング職員研修	特定機能病院承認要件に定めるe-ラーニング職員研修	e-ラーニング	年1回	2024年10月1日～12月27日	1,507名

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
新規採用者オリエンテーション	『医療機器操作について』	講義	年1回	2024.4.1	
追加職員研修	『医療機器安全管理』	e-learning	年1回	2024.10.1～ 2024.12.27	
リスクマネージャー会議 アドバンスドセミナー	『ETCO2モニタについて』	講義 伝達講習	複数回のうち1回	2024.8.28	
追加職員研修	『身近な医療機器・材料の安全管理』	講義 e-learning	年4回のうち1回	2024.10.31	
医療機器安全管理研修	人工心肺装置及び補助循環装置 人工呼吸器 血液浄化装置 除細動器(AED除く) 閉鎖式保育器	講義 OJT	複数回	2023.4～随時	
宮崎大学NST地域勉強会	①重症熱傷の代謝栄養療法 ②急性期の栄養療法update	①オンライン ②ハイブリッド	年2回	①2024/7/26 ②2024/11/8	①31 ②217
第6回病棟別薬剤研修会	抗がん剤の曝露対策について	スライドもしくはハ ンドアウトを用いた 研修会	15回	各病棟ごとに開催	123名
看護倫理Ⅰ	1)看護倫理とは 2)「徳の倫理」と「原則の倫理」について 3)倫理的ジレンマについて 4)GW: 事例をもとに、倫理的問題に気づく	講習 演習	年1回	6月28日	48
フィジカルアセスメントⅠ	看護師の特定行為研修 フィジカルアセスメント導入 「全身状態とバイタルサイン」35分 ・事例検討	e-ラーニング	年1回	6月12日(水)	47
心理・社会的側面のヘルスアセスメントⅠ	プロセスレコードを用い、実践した看護場面の再構成 1)理論をもとに、患者心理を理解する 2)自分の行動を客観的に見つめる	プロセスレコードを 用いた振り返り	年1回	6月～11月	47
看護過程Ⅰ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	年1回	6月～11月	47
認知症の人とのコミュニケーション	1)認知症について 2)認知症の人のコミュニケーションの特徴 3)認知症の人とのコミュニケーションのポイント	講義	年1回	8月7日	49
今日からできる摂食・嚥下・口腔ケア	1)摂食・嚥下・口腔ケアとは 2)嚥下の評価について 3)食事介助の具体的な方法	講義	年1回	9月6日	48
チーム医療Ⅰ	1)チーム医療とは 2)チーム医療における看護師の役割について	講義 演習	年1回	7月12日	48
看護研究Ⅰ	学研e-ラーニング 「看護研究とは？どうして研究するの？」	e-ラーニング	年1回	5月10日	48
看護倫理Ⅱ	1)看護実践上の倫理的概念とは アドボカシー、責任と責務、協力、ケアリング 2)事例検討 グループワーク	講義 グループワーク	年1回	7月8日	34
フィジカルアセスメントⅡ	臨床病態生理学 呼吸器 「呼吸運動と換気」 臨床推論 循環器「胸痛」 ・事例検討	e-ラーニング 事例検討	年1回	7月5日	34
心理・社会的側面のヘルスケアアセスメントⅡ	プロセスレコードを用い、実践した看護場面の再構成 1)患者心理を理解し、自身の認識との ずれを明らかにする 2)自分の看護介入を客観的に考察する 3)自己の看護観を再考する	プロセスレコードを 用いた振り返り	年1回	6月～11月	37
看護過程Ⅱ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	年1回	6月～11月	39
人工呼吸器装着患者の看護	講義・演習 1)人工呼吸器のモードとアラーム対応 2)人工呼吸器装着患者の看護 VAP予防を含む 技術：自部署・集中治療部・救命救急センターでの実習	講習 演習	年1回	講義 5月21日 演習 6月～11月	37
リーダーシップ研修	1)リーダーに求められる役割について 2)リーダーシップについて 3)自己のリーダー役割を振り返り、課題を見つける	講習 演習	年1回	7月23日	33
看護研究Ⅱ	学研e-ラーニング 「研究デザインを理解する」	e-ラーニング	年1回	8月9日	36
プリセプター研修	1)当院の新人教育プログラムについて 2)プリセプターの役割について 3)新人の特性に合わせた支援について	講義 演習	年1回	4月26日	34

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
看護倫理Ⅲ	1)患者の意思決定支援について 2)アドバンス・ケア・プランニングとは 3)患者に合わせたアドバンス・ケア・プランニング 4)事例をもとに、患者・家族の意思決定についての問題とその支援を考える	講義	年1回	9月27日	6
リフレクションⅢ	1)リフレクションの技法について 講義、演習 ＜受講後＞ 2)新人看護師が記載したリフレクティブジャーナルを用いたリフレクションの実施	講義 演習	年1回	6月17日	26
看護過程Ⅲ	実践した看護過程を事例にまとめる	事例検討	年1回	5月～9月	6
チーム医療Ⅲ	訪問看護ステーションでの実習	実習	年1回	7月～9月	6
臨地実習指導者研修	1)臨地実習の意義について 2)看護基礎教育について 3)臨地実習指導者の役割と業務について 4)実習指導者に求められる力 ・看護過程を展開する力 ・伝える力 ・対人関係を築く力 ・指導する力 ・生涯にわたって自己研鑽する力	講義	年1回	7月2日	11
問題解決Ⅲ	1)問題解決技法について 2)問題解決プロセスについて ・現状の分析、問題の抽出 ・実施計画書の作成 ・実施評価	講義 演習	年3回	3回コース ①4月23日 ②5月29日 ③9月13日	6
静脈注射(中心静脈ポート編)	＜講義・演習＞ 1)中心静脈ポートとは 2)中心静脈ポートからの薬剤投与について 3)中心静脈ポート管理上の注意事項について 4)モデルを使用した中心静脈ポートの穿刺と抜針の演習 ＜がんセンターでの実習＞ 5)中心静脈ポートの穿刺と抜針の実践	講義 演習 実習	年1回	講義・演習 4月30日 実習 5月～12月	17
スキルアップ静脈注射研修	講義 1)超音波診断装置とは 2)超音波等のデジタル機器の画像の見方 3)超音波画像データの読み解きとアセスメント演習 4)超音波等のデジタル機器を用いての血管確保	講義 演習	年1回	10月3日	13
【院内認定看護師：養成研修】災害支援ナース	＜講義・グループワーク＞ 1)院内認定看護師「災害支援ナース」の役割 2)災害に関する基礎知識 3)災害時に備え、部署の事前対策 4)災害時に備え、災害時の対応ができるスタッフの育成 5)災害時、患者・スタッフの安全確保 するためのリーダーの役割 6)災害下での患者・スタッフのストレス対応とその支援方法	講義 グループワーク	年1回	①9月26日 ②10月24日 ③11月22日	4
【院内認定看護師：フォローアップ研修】災害支援ナース	院内認定看護師「災害支援ナース」の役割について部署等での活動の発表、振り返りを行う。	講義 グループワーク	年1回	9月18日	12
【院内認定看護師：フォローアップ研修】スキンケア	1)スキンケアやストマケア領域の最新の情報 2)スキンケア・ストマケア領域の臨床推論	講義 演習	年1回	9月4日	10
【院内認定看護師：フォローアップ研修】重症集中ケアクリティカルケア	1)集中ケア、クリティカルケア領域の最新の情報 2)集中ケア・クリティカルケアの領域の臨床推論	講義 演習	年1回	11月6日	4
【院内認定看護師：フォローアップ研修】インフェクションコントロール(IC)	1)IC領域の最新の情報 2)IC領域の最新の臨床推論	講義 演習	年1回	10月9日	5
【院内認定看護師：フォローアップ研修】呼吸ケア 呼吸理学療法	1)呼吸ケア領域の最新の情報 2)呼吸ケア領域の臨床推論	講義 演習	年1回	11月20日	11
倫理的感受性を高めよう	1)「看護職の倫理綱領」16項目の行動指針について (看護職の倫理的な役割と責任について吟味する) 2)倫理的問題とは。その定義について 3)倫理的問題に気づいた時の対応について	講義	年1回	4月16日	60
フィジカルアセスメント	1)基本技術である視診・触診・聴診の手法 2)心電図モニター、12誘導心電図の装着と波形の意味について 3)体液のバランスについて	講義	年1回	4月25日	60
心理・社会的側面のヘルスアセスメント	1)ニード理論、成長・発達理論、ストレス・適応理論について 2)受け持ち患者の心理、社会的側面のアセスメント	講義	年1回	5月13日	53

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
医療安全のための基礎技術	1)患者確認・指示確認の方法(内服薬・麻薬) 2)患者確認・指示確認の方法(注射薬) 3)注射準備 4)感染予防対策 5)輸液ポンプ 6)シリンジポンプ	講義 演習	年1回	4月9日	59
実践前研修	1)～7)の演習 1)経管栄養法 2)導尿 3)膀胱内留置カテーテル挿入 4)洗腸 5)筋肉内注射 6)静脈採血と検体の取り扱い 7)食事介助(嚥下障害がある場合)	演習	年1回	5月～9月	156
フォローアップ研修	1)～7)の演習 1)排便 2)吸引 3)人工呼吸器の管理 4)直腸内与薬(実践19、20) 5)中心静脈内注射の管理 6)輸血の準備、輸血中・後の観察 7)死後の保清と整容	演習	年1回	11月～2月	56
褥瘡予防ケア 呼吸ケア	1)褥瘡の成り立ちと予防の基本的知識 2)褥瘡予防ためのケアについて 3)演習・安楽体位、呼吸ケア	講義 演習	年1回	6月25日・26日	53
せん妄予防	1)不穏・認知症との違い 2)せん妄の特徴と観察ポイントについて 3)せん妄の具体的な予防ケア 4)せん妄患者の看護ケア	講義	年1回	9月11日	55
静脈注射 (初級編)	講義 1)薬の作用、副作用について 2)感染・針刺し事故防止 3)解剖学(安全な部位) 4)留置針による血管確保 5)静脈注射の院内取り決めについて 演習 6)血管穿刺の実際 シミュレーターを用いた演習	講義 演習	年1回	【知識編】 4月12日 7月29日 【技術編】 5月1日 8月28日	50
静脈注射(麻薬編)	1)麻薬の作用 2)疼痛コントロール 3)麻薬のシリンジポンプ投与方法の注意点 4)PCAポンプの操作	講義	年1回	6月4日 11月8日	60
静脈注射(抗がん薬編)	1)抗がん薬の作用と急性期の副作用について 2)曝露対策について 3)血管外漏出対策について 4)投与管理の実際について	講義 演習	年1回	6月14日 12月3日	66
救急蘇生 (BLS, AED, 気管挿管)	部署の状況をふまえた急変時の対応 ・救急処置の演習	講義 演習	年1回	5月～2月	42
看護記録	1)看護記録の目的 2)法的位置づけ・カルテ開示について 3)施設基準・診療報酬に係る記録 4)看護記録の倫理的配慮 5)当院の看護ケアプロセス 6)看護過程の展開および看護実践の記録について	講義	年1回	4月16日	59
看護過程	1)患者支援センターでの問診の見学と実践 ・主観的情報、客観的情報を収集する ・コミュニケーション技法 2)受け持ち患者の事例展開 ・情報収集から入院後の計画立案、評価まで	実習 事例検討	年1回	9月～10月 11月～令和7年1月	42
STAS-J	1)STAS-Jについて 2)STAS-Jの評価方法について 演習:事例を用いて実際に評価する	講義 演習	年1回	8月2日	60
新卒者研修 —2年目に向けての課題を見つけよう—	チーム医療における看護師の役割について (KJ法的手法を用いたグループワーク)	グループワーク	年1回	1月24日	40
新人看護師のためのリフレッシュ研修	1)リアリティショックとは 2)リアリティショックの対処法について 3)セルフコントロールの方法について	講義	年1回	5月31日	49
中途採用看護職のリフレッシュ研修	現状の情報交換と意見交換	講義 グループワーク	年1回	7月26日	14
重症度、医療・看護必要度	1)診療報酬と入院基本料に求められる 「重症度、医療・看護必要度」について 2)演習:事例を用いて実際に評価する	講義	年1回	4月17日 各看護単位で日程調整	593
がん看護 アピアランスケア	1)第4期がん対策基本計画とは 2)アピアランスケアとは 3)アピアランスケアの実際 ・外見ケア ・外見変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア	講義	年1回	11月26日	22

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
看護補助者との協働	1)看護職と看護補助者との協働推進の背景 2)看護補助者の教育・研修 3)看護補助者と協働する看護業務の基本的な考え方 4)看護補助者との協働のためのコミュニケーション 5)診療報酬における看護補助者の評価	講義	年1回	4月17日 各看護単位で日程調整	593
高齢者のフィジカルアセスメント	1)高齢者の運動系(筋骨格)機能の特徴について 2)高齢者の日常生活支援に繋ぐための関節可動域、筋力、歩行、ADLのアセスメントの視点について 3)運動系(筋骨格)の機能低下に着目した日常生活支援の実践	講義	年1回	11月18日	19
看護研究	1)研究テーマの絞り方の手順 ・リサーチクエスト ・PICO/PECO定形式 ・先行研究のレビュー 上記について研究をした人よりプロセスを学ぶ	講義	年1回	6月3日	12
英語研修	1)アドバンスコース 2)ベーシックコース	講義等	年8回	6月～12月	8
コンピテンシー学習会ステップⅠ	「コンピテンシーを活用した看護管理者の育成」	グループワーク	年7回	5月～12月	3
看護ケアプロセス	部署の看護過程1事例(新人看護師もしくはラダーⅡ申請者)をクリティカルシンキングし、事例の受け持ち看護師を支援する		年1回	事例検討	26
看護管理学習会	看護管理の事例検討	グループワーク	年7回	事例検討	26
全職員対象BLS講習会 (スタンダードコース)	一次救命処置(BLS)教育講習	実技講習	年11回	①4/8 ②5/13 ③6/10 ④7/8 ⑤9/9 ⑥10/21 ⑦11/11 ⑧12/19 ⑨1/20 ⑩2/10 ⑪3/17	①5名 ②10名 ③10名 ④8名 ⑤8名 ⑥7名 ⑦8名 ⑧7名 ⑨8名 ⑩8名 ⑪8名
全職員対象BLS講習会 (ベーシックコース)	一次救命処置(BLS)教育講習	実技講習	年2回	①6/20 ②9/13	①22名 ②25名
個人情報保護・情報モラルに関する講習会	個人情報に関する動画を閲覧し、テストを受験する。	e-ラーニング	1回	3/10～3/31	1,122名
START式トリアージ講習会	・基礎講義 ・トリアージ実技演習 ・止血帯実技演習	講義、実習	年1回	2024年6月10日	15名
院内ロジスティクス研修会	・クロノロ記載 ・傷病者リストの作成 ・院内EMIS・EMIS入力 ・情報収集機器(衛星携帯電話、簡易無線)の操作方法	講義、実習	年1回	2024年8月5日	20名
院内ロジスティクス隊員養成研修	①災害時の情報管理とクロノロジー ②EMIS、院内EMIS訓練 ③衛星携帯電話、簡易無線を用いた情報伝達 ④院内災害対策本部運営訓練への参加 ⑤院内大規模災害訓練への参加 ⑥統括・修了式	講義、実習	全6回	希望者7名に対して、 災害対策WG終了後に全6回/1回30分程度の講義を行う ①2024年5月29日 ②2024年7月10日 ③2024年9月25日 ④2024年10月8日 ⑤2024年11月29日 ⑥2025年3月17日	7名
傷病者搬送研修	ストレッチャーや車いすの使用方法について	講義、実習	年1回	2024年11月7日	15名
病院災害対策本部運営訓練	・病院災害対策本部の立ち上げ ・災害時の適切な情報収集及び発信について ・二次元展開法による適切な情報処理について ・各種課題への適切な対応方法について	講義、実習	年1回	2024年10月8日	41名
院内大規模災害訓練	・院内EMIS入力訓練 ・災害対策本部訓練 ・多数傷病者受け入れ訓練 ・災害時トイレ設置訓練	実習	年1回	2024年11月29日	200名程度
ドクターズクラーク32時間研修	①医師法、医療法、医薬品医療機器等法、健康保険法等の関連法規の概要 ②個人情報の保護に関する事項 ③当院で提供される一般的な医療内容及び各配置部門における医療内容や用語等 ④診療録等の記載・管理及代筆、代行入力 ⑤電子カルテシステム(オーダーリングシステムを含む)	講義 e-learning	年1回	2024/4/5～ 2024/4/12	5名

研修名	内容・プログラム	研修方法	開催回数	開催日	参加者数
保険診療に関する講習会の開催について	令和6年度保険診療に関する講習会	講習会	年2回	第1回:令和6年8月27日(火)～令和6年9月10日(火) 第2回:令和7年2月25日(火)～令和7年3月11日(火)	
第16回宮崎リハビリテーション講習会	リハビリテーション講習	講習会	年1回	令和6年10月20日	62名
栄養管理部研修会	①重症熱傷の代謝栄養法 ②急性期の栄養療法update	研修	年2回	①7月26日 ②11月8日	①28名(オンライン) ②110名(ハイブリッド)
第14回宮崎病理診断フォーラム(子宮体部領域)	病理診断フォーラム	講習会	年1回	2024年10月5日(土) 14時～17時	50名

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 賀本 敏行
管理担当者氏名	瀬口 智子

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び各診療科	・原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 ・エックス線写真は電子媒体に保存 ・診療録等を本院外に持ち出さない
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	・電子媒体で保存
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療安全管理マニュアル内保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課 感染制御部	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び感染対策マニュアル内保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	電子媒体(医療支援課共有フォルダ内)保存及び医療支援課内鍵付きキャビネット保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課 感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	薬剤部に紙媒体で保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	手順書：全部署 実施状況：薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	薬剤部に電子媒体で保管
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	各部門に電子媒体で保管
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	各部門	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	各部門	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	薬剤部に電子媒体で保管
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	電子媒体（診療情報室フォルダ内）保存
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	総務課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	賀本 敏行
閲覧担当者氏名	瀬口 智子
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟3階 ミーティングルーム
閲覧の手続の概要	
・内部者については権限を付与し、閲覧を制限している。 ・外部者については、特に定めていない。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理の基本的考え方 2. 医療に係る安全管理体制 3. 職員研修・教育 4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策 5. 医療事故等発生時の対応 6. 深刻な感染症事例発生時の対応 7. 患者等との情報の共有 8. 患者からの相談の対応 9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有 ） ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故防止のための具体的措置に関すること。 2. 医療安全管理マニュアルに関すること。 3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関すること。 4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関すること。 5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関すること。 6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関すること。 7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関すること。 8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関すること。 9. 医療安全管理部の業務に関すること。 10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関すること。 11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関すること。 12. 医療放射線に係る安全管理のための体制の確保に関すること。 13. その他医療事故等及び医療訴訟に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する講演会（4 回） <ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 「病院内でのすべての鎮静を安全に行うために～酸素化のモニタリングと換気のモニタリングの重要性～」 第 2 回 「医薬品の適正使用に向けて」 第 3 回 「放射線部の医療安全」 第 4 回 「身近な医療機器・材料の安全管理」 2. 講演会e-ラーニング（第 1 回～第 4 回）（1 回） 3. 新規採用者研修（1 回） 4. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修e-ラーニング（1 回） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理部会議、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等 2. リスクマネージャー会議での事例報告及び周知 3. 作業標準の作成 4. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し 5. 院内ラウンド 6. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告 7. 院内全死亡例についての検証 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 院内感染対策に対する基本的な考え方 委員会等の組織に関する基本的事項 職員研修に関する基本方針 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告 抗菌薬適正使用に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 地域の医療施設等との連携に関する基本方針 その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 感染の予防に関すること。 感染の情報の収集に関すること。 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。 防疫対策の確立に関すること。 その他感染対策についての重要事項に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年7回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 感染対策に関する講演会（4回） <ol style="list-style-type: none"> 第1回 「手指消毒剤使用量向上のために必要な知識と実践について」 第2回 「ポストコロナとAMR（薬剤耐性菌）感染対策」 第3回 「当院の細菌検査について」 第4回 「当院の感染対策 Up To Date 2024」 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回） 各部署との勉強会（2回） <ul style="list-style-type: none"> 病棟（1回） 手術部（1回） 新規採用者研修（1回） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備（有） その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部での検討、現場へのフィードバックを行う。 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が感染制御部へ報告する。感染制御部は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。 感染制御部による定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策および抗菌薬適正使用支援の推進を図る。 	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第2回医療安全管理・感染対策講演会</p> <p>「医薬品の適正使用に向けて ～サリドマイド製剤、レナリドミド製剤及びポマリドミド製剤の使用に当たっての安全確保の徹底について～」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用 2. 医薬品の購入 3. 患者に対する医薬品の処方から調剤に関する事項 4. 部署における麻薬およびプレグランディン腫瘍剤の運用 5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 6. 病棟における医薬品の管理 7. 外来、中央診療部門における医薬品の管理 8. 手術部の医薬品管理 9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集、提供等）に関する事項 10. 救急部門・集中治療室・総合周産期母子医療センター 11. 輸血・血液管理部門 12. 生命維持管理装置領域 13. 臨床検査部門 14. 画像診断部門 15. 他施設との連携 16. 事故発生時の対応 17. 教育・研修に関する事項 18. 薬剤部部門 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：院内製剤</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品専門部会で情報を把握・収集および審議し、医療安全管理委員会へ報告を行う</p>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明</p> <p>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処</p> <p>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて</p> <p>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （有）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：適応外使用有り</p> <p>45歳男性 外傷性脾損傷に対して十二指腸ステント(Boston Scientific 社 HANAROSTENT®)の使用。</p> <p>58歳男性 食道癌術後の通過障害に対して食道ステント（HANAROSTENT®）の使用。</p> <p>1 歳男性 腎動脈狭窄症に対して冠動脈ステント(XIENCE Skypoint)の使用。</p> <p>56歳男性 特発性急性脾炎後の被包化脾壊死に対する胆管用金属ステント（BONASTENT）の使用。</p> <p>0 歳男性 動脈管ステントとしての冠動脈ステント(XIENCE Skypoint)の使用。</p> <p>87歳男性 急性閉塞性胆管炎に対するHot-AXIOSシステム(BOSTON Scientific)の使用。</p> <p>62歳男性 PCI後の冠動脈瘤に対するカバードステントの使用。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・ 責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者の配置を、「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」に明記している。併せて、医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する文言を明記している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室の担当者に PMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度、緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>調剤時や病棟業務において未承認を含む使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医薬品専門部会、医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無（有）</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師）（所属：，職種）</p> <p>（所属：，職種）（所属：，職種）</p> <p>（所属：，職種）（所属：，職種）</p> <p>（所属：，職種）（所属：，職種）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームド・コンセントの対象となる医療行為について説明と同意に関する記録・同席の基準が遵守されているか質的監査を実施している。リスクSについては記録・同席とも必須とし、リスクAについては看護師の同席は原則とし同席できない場合は説明後に関りをもち、患者等の理解を記録に残すことを指導した。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>システムによる量的監査の実施および診療録チェックシートを用いた質的監査を多職種で実施し評価結果を診療録監査・IC委員会へ報告し、指導内容については医療安全管理委員会、病院運営審議会で職員全体に周知指導した。職員全体に周知指導した。監査を実施する構成委員であるリスクマネージャーについては所属する診療録の記載を確認する自己評価を実施し、監査結果を診療科ヘフィードバックすることにより、所属職員への医療安全管理の教育を実践している。</p> <p>・ 指導内容</p> <p>1. 診療録記載率向上と適正な記載記録の促進</p> <p>2. 侵襲を伴う医療行為の説明同意書について共通様式を使用した患者にわかりやすい記載とする</p>	

3. 病名は診療・診断の都度登録し、傷病転帰を記載し逐一整理すること	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（９）名 うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（８）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（０）名 うち看護師：専従（２）名、専任（１）名、兼任（０）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関すること。 インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。 インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。 インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。 患者からの医療に係る相談に関すること。 インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。 （入院患者の全死亡例報告の検証を含む） 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。 医療安全のための教育・研修に関すること。 医療安全管理マニュアルに関すること。 医療安全の確保に資する診療内容のモニタリングに関すること。 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。 その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。 <p>上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（７件）、及び許可件数（７件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ） ・活動の主な内容：</p> <p>前年度、診療科から７件の申請を受け、７件について高難度新規医療技術評価委員会を開催し、委員会の意見を踏まえ、提供の適否について７件を承認決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。また当該技術が適正な手順に基づいて提供されたかについては、報告書の提出を受け、実施状況を確認し病院長へ報告を行った。</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ）</p>	

<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（〇件）、及び許可件数（〇件）・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有） <p>前年度、診療科からの申請はなかった。承認中の当該医療提供が承認日から１年を経過し、年１回の定期報告を受け、実施および遵守状況を確認し病院長へ報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年３０５件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年６４件（３b 以上） ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 入院患者の院内死亡事例については、毎週１回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至った経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否か判定したものを毎月開催される委員会で審議している。 特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象（３b 以上）についても同様に、毎週１回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：大阪公立大学医学部附属病院）１０月２２日） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：千葉大学医学部附属病院）１１月１４日実施） ・技術的助言の実施状況 リスクマネージャー会議についてこれまでハイブリッド方式（WEB・対面）で実施していたが、直接言葉を伝えられるメリットを鑑み、対面での開催方式への助言を受け、対面での開催に変更した。
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 宮崎大学医学部附属病院患者相談等取扱要領及び宮崎大学医学部附属病院患者相談室に関する申合せにより、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。
<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> １．医療安全管理に関する講演会（４回） 第１回、第２回、第３回、第４回 ２．講演会 e-ラーニング（第１回～第４回）（１回） ３．新規採用者研修（１回） ４．特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修 e-ラーニング（１回） <p>（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の１０月１日の員数を記入すること）</p>

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 管理者：2024 年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1 日間） 医療安全管理責任者：2024 年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1 日間） 医薬品安全管理責任者：2024 年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1 日間） 医療機器安全管理責任者：2024 年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1 日間） <p>（注）前年度の実績を記載すること</p>

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・第三者による評価の受審状況 （公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院 3、3rdG：Ver. 2.0） 認定期間：2023 年 2 月 17 日～2028 年 2 月 16 日 ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 病院のホームページに、認定情報及び結果の公表を行っている。 ・評価を踏まえ講じた措置 評価によって明らかになった課題等の解消のため、関係部署との連携により継続した改善への取り組みを行い、病院サービスの質の向上に努めている。 <p>（注）記載時点の状況を記載すること</p>

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許を有している者 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要 な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有すること。 3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院又は当院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定 機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に 留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシッ プを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。 4. 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有する者 医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
佐藤 一仁	宮崎大学 理事 (総務担当)	○	医学部附属病院長候補者選考会 議細則第3条第1号に基づく学 長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
片岡 寛章	宮崎大学 理事 (研究・企画担 当)		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第3条第1号に基づく学 長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
菱川 善隆	宮崎大学 医学		医学部附属病院長候補者選考会	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

	部長		議細則第3条第2号に基づく役職指定者	
海北 幸一	宮崎大学(運営審議会構成員)		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第3号に基づく運営審議会構成員からの選出	<input checked="" type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 無
恒吉 勇男	宮崎大学(運営審議会構成員)		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第3号に基づく運営審議会構成員からの選出	<input checked="" type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 無
高村 一志	公益社団法人 宮崎市郡医師会長		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第4号に基づく学長が委嘱する学外有識者 宮崎市郡医師会長として、医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
渡久山 武志	宮崎県 福祉保健部長		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第4号に基づく学長が委嘱する学外有識者 宮崎県の医療に係る担当責任者として、医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
長鶴 美佐子	宮崎県立看護大学学長		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第4号に基づく学長が委嘱する学外有識者 教育に関する有識者として、豊富な経験と高い識見を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
福満 美和	宮崎大学(医学部附属病院看護部長)		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第5号に基づくその他学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する事項を審議</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 病院連絡会議等で周知している</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・公表の方法 大学ホームページに掲載</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
賀本 敏行	○	医師	病院長
海北 幸一		医師	循環器内科科長
菊池 正雄		医師	腎臓内科科長
下田 和哉		医師	血液内科科長
塩見 一剛		医師	脳神経内科科長
宮崎 泰可		医師	呼吸器内科科長
山口 秀樹		医師	内分泌・代謝・糖尿病 内科科長
梅北 邦彦		医師	膠原病内科科長
高城 一郎		医師	感染症内科科長
河上 洋		医師	消化器内科科長
平野 羊嗣		医師	精神科科長
盛武 浩		医師	小児科科長
七島 篤志		医師	肝胆膵外科科長
武野 慎祐		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
中目 和彦		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
古川 貢之		医師	心臓血管外科科長
前田 亮		医師	呼吸器・乳腺外科科長
伊東 大		医師	形成外科科長

亀井 直輔		医師	整形外科科長
持田 耕介		医師	皮膚科科長
澤田 篤郎		医師	泌尿器科科長
池田 康博		医師	眼科科長
高橋 邦行		医師	耳鼻いんこう・頭頸部 外科科長
桂木 真司		医師	産科婦人科科長
東 美菜子		医師	放射線科科長
恒吉 勇男		医師	麻酔科科長
沖田 典子		医師	脳神経外科科長
山下 善弘		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯 科科長
佐藤 勇一郎		医師	病理診断科科長
久富木 庸子		医師	輸血・細胞治療部長
落合 秀信		医師	救命救急センター長
荒川 英樹		医師	リハビリテーション 科科長
土井 宏太郎		医師	遺伝カウンセリング 部長
細川 歩		医師	がんセンター長
谷口 正彦		医師	ME機器センター長
永田 賢治		医師	肝疾患センター長
伊東 芳郎		医師	地域総合医育成セン ター長
板井 孝一郎		教授	臨床倫理部長
永田 順子		歯科医師	口唇口蓋裂・口腔育成 センター長
綾部 貴典		医師	医療安全管理部長
児玉 由紀		医師	総合周産期母子医療 センター長
渡邊 信二		医師	コミュニティ・メディ カルセンター長
小松 弘幸		医師	医療人育成推進副セ ンター長
金氏 毅		医師	周術期口腔ケアセン ター長
池田 龍二		薬剤師	薬剤部長
福満 美和		看護師	看護部長
野澤 勝信		事務職	事務部長
陪席			
盛武 浩		医師	医学部長
水口 麻子		医師	病院長補佐
猪崎 みさき		臨床検査技師	検査部技師長
小味 昌憲		診療放射線技師	放射線部技師長
坂元 あい子		臨床検査技師	輸血・細胞治療部技師 長
野口 裕史		衛生検査技師	病理部技師長

宮崎 茂明		理学療法士	リハビリテーション 部技士長
小田 裕一		臨床工学技士	ME機器センター臨 床工学技士長
笹葉 啓子		管理栄養士	栄養管理部副部長
奥村 学		薬剤師	医療安全管理部副部 長
中尾 直子		看護師	医療安全管理部副部 長
児玉 裕子		看護師	医療安全管理部副部 長
河崎 千穂		看護師	感染対策師長
山下 篤		教授	病理学講座

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
大学ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
 - 病院長は、本院の管理運営を総括し、所属職員を監督する。
 - 病院等は、本院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限を有する
 - 科長や部長等の任命権限
 - 科長及び副科長の解任権限
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長 8 名（医療安全管理担当、経営企画担当、教育・研究担当、医療連携・情報・広報担当、地域貢献・災害担当、薬事担当、看護担当、事務担当）
 - 病院長補佐 8 名（医療倫理担当、医療安全教育担当、若手医師担当、就労環境・女性医師担当、総務課長、管理課長、医事課長、総務医事課長）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
大学で管理者研修を実施している

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無				
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>①医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について医学部附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>②委員会は必要に応じて、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるようよう意見を述べる。</p> <p>③委員会は上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・公表の方法：</p> <p> 本院ホームページに掲載</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西平 淳子	琉球大学病院 医療の質・安全管理部	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体 就労支援アストモス		医療を受ける者	無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
大学業務の監査、分析に関すること。
大学業務の指導、改善に関すること。
- ・ 専門部署の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
本学ホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項 組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項 ・ 会議体の実施状況（ 年 8 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年 7 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法 本学ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）・ 通報件数（年〇件）・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）・ 周知の方法 本院ホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションオーダーを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。</p> <p>診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。</p> <p>手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。</p>	